

法 学 部

履 修 要 項

平 成 4 年 度

駒澤大學



# 学 年 曆

## 前 期

- 4月8日(水) 入学式
- 9日(木) } 新生オリエンテーション
- 11日(土) }
- 9日(木) } 在校生身分証明登録
- 20日(月) }
- 9日(木) } 在校生成績発表
- 10日(金) }
- 9日(木) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(金) } 受付(学部2年次生)
- 10日(金) } 時事外国語受講届受付  
(経済学部3年次生)
- 13日(月) } 在校生成績質疑応答
- 18日(土) }
- 13日(月) 前期授業開始
- 20日(月) } 履修届受付(学部・短大)  
(学部により受付日が異なる)
- 23日(木) }
- 20日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 24日(金) }
- 5月25日(月) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4  
年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(水) }
- 7月14日(火) } 中間試験及び前期終了定期試験  
(授業平常どおり)
- 20日(月) } 前期授業最終日
- 21日(火) } 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 21日(火) } 体育実技II集中授業コース  
(学部2年次生)
- 25日(土) }
- 24日(金) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試  
験申込)受付締切
- 9月7日(月) } 補講期間
- 11日(金) }

## 後 期

- 9月16日(水) 後期授業開始
- 17日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質  
疑応答)および再試験申込受付
- 18日(金) }
- 24日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米  
文>・法学部・短大国文・英文の1年  
次生および昭和63年度以前入学の経  
済学部の2年次生)
- 30日(水) }

- 24日(木) } 専攻コース指定届受付
- 25日(金) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 25日(金) } 前期終了科目追・再試験  
(授業平常どおり)
- 10月1日(木) }
- 5日(月) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 8日(木) }
- 15日(木) } 第110回開校記念日(全学休業)
- 28日(水) } 転部・転科試験願書受付
- 30日(金) }
- 11月16日(月) } 編・再入学願書受付
- 20日(金) }
- 20日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(火) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年  
次生)(締切日は正午まで)
- 10日(木) }
- 20日(日) } 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 20日(日) } 体育実技II集中授業コース  
(学部2年次生)
- 24日(木) }
- 21日(月) } 編・再入学試験

## 平成5年

- 1月8日(金) 後期授業再開
- 14日(木) 後期授業最終日
- 16日(土) }
- 26日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 27日(水) }
- 2月3日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育  
科目)
- 5日(金) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の  
4年次生)
- 5日(金) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年  
次生・短大生)
- 5日(金) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締  
締(学部1~3年次生)
- 15日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキ  
ー)(学部2年次生)
- 19日(金) }
- 18日(木) } 成績発表(質疑応答)および追・再試  
験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 19日(金) }
- 23日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)  
および追試験(学部1~3年次生)
- 3月1日(月) }
- 19日(金) } 卒業者名簿発表
- 25日(木) } 卒業式

## 授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

# 目 次

## I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 ..... (1)
2. 授業科目の単位数 ..... (1)
3. 授業科目の区分 ..... (1)

## II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 ..... (2)
2. 卒業及び学位記の授与 ..... (2)

## III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 ..... (3)
2. 外国語科目の履修方法 ..... (5)
3. 保健体育科目の履修方法 ..... (7)
4. 基礎教育科目の履修方法 ..... (8)
5. 専門教育科目の履修方法 ..... (8)
6. 他学部科目の履修方法 ..... (12)
7. 随意科目の履修方法 ..... (14)
8. 再履修科目の履修方法 ..... (14)
  - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 ..... (14)
  - ※ 授業科目のコード番号について ..... (15)

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 ..... (16)
2. 履修届記入上の注意 ..... (17)
3. 履修届（時間割）の作成順序 ..... (18)
  - 授業時間 ..... (18)

## V 試験および成績評価

1. 定期試験 ..... (19)
2. 中間試験 ..... (19)
3. 追・再試験 ..... (19)
4. 受験心得 ..... (20)
5. 成績評価・単位認定 ..... (20)
6. 試験時間 ..... (21)
7. 成績発表 ..... (21)

VI	進級について	(22)
----	--------	------

VII	教職課程・資格講座	(23)
-----	-----------	------

## VIII 事務取扱いについて

1.	事務室の事務受付時間	(24)
2.	休 講	(24)
3.	掲示・連絡	(24)
4.	問い合わせ	(24)

## IX 学籍について

1.	修業年限と在学年数	(25)
2.	休 学	(25)
3.	復 学	(25)
4.	退 学	(26)
5.	除 籍	(26)
6.	懲 戒	(26)
7.	編 入 学	(26)
8.	再 入 学	(26)
9.	転部・転科	(26)
10.	留 学	(27)
11.	学生氏名・保証人	(27)
12.	学生番号	(27)

X	既修得単位の認定について	(28)
---	--------------	------

XI	届書・願書について	(29)
----	-----------	------

XII	各種証明書取扱い窓口	(30)
-----	------------	------

	試験実施規程（抜粋）	(31)
--	------------	------

	講義内容	(33)
--	------	------

## 付 録

	研究所案内	(付1)
--	-------	------

	国家試験について	(付2)
--	----------	------

# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

## 2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- |           |                          |           |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) ……………   | 選択必修科目    |
| 2. 外国語科目  | (第1外国語・第2外国語) ……………      | 選択必修科目    |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) ……………            | 必修科目      |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) ……………   | 必修科目      |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) ……………    | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目  | (履修可能な他学部公開設置科目) ……………   | 選択科目      |
| 7. 随意科目   | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目      |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目  
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目  
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

## Ⅱ 卒業に必要な単位数

### 1. 卒業に必要な単位数

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	86	
	選 択		38		

### 2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

法学部 { 法律学科 …… 学 士 (法律学)  
 政治学科 …… 学 士 (政治学)

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。但し、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

#### 法 律 学 科

人文分野	4科目	計16単位	} 合計9科目 36単位
社会分野	3科目	計12単位	
自然分野	2科目	計8単位	

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	} 「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	} 36	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	哲学	4				
	論理	4				
	倫理	4				
	文化	4				
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む)	4	} 3科目選択必修	12	} 36	教員免許状を 取得しようとする ものは「法学 憲法」を必修と する。
	政 治 学	4				
	経 済 学	4				
	社 会 学	4				
	統 計 学	4				
	文 化 人 類 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	} 2科目選択必修	8	} 36	
	地 球 学	4				
	心 理 学	4				
	コ ン ピ ュ ー タ 概 論	4				
	生 物 学	4				
	生 物 学	4				

- ※ 「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
- ※ 「コンピュータ概論」を受講（人数 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

## 政治学科

人文分野 4科目 計16単位  
 社会分野 3科目 計12単位  
 自然分野 2科目 計8単位

} 合計 9科目 36単位

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	} 「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	} 36	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	哲学	4				
	論理	4				
	倫理学	4				
社会分野	法学憲法 (日本国憲法2単位を含む)	4	} 3科目選択必修	12	} 36	教員免許状を 取得しようとする ものは「法学と 憲法」を必修と する。
	法経社文	4				
	済会計人	4				
	学学学学	4				
	類学	4				
自然分野	自然科学概論	4	} 2科目選択必修	8	} 36	
	地心	4				
	理	4				
	コンピュータ概論	4				
	生物	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

※「コンピュータ概論」を受講（人数 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）



## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになる。その2ヵ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

### 1年次の履修

6ヵ国語のうち英語IA・IBの2科目と、入学手続の際に指定した外国語IA・IBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 IA	2		IA・IBの2科目を必修とする。ただしIAは「英会話I（定員40名）」または「英語LLI（定員30名）」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 IB	2		
英会話 I	2		
英語LLI	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 IA	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語IA・IBの2科目を必修とする。
ドイツ語 IB	2	講読	
フランス語 IA	2	文法	
フランス語 IB	2	講読	
中国語 IA	2		
中国語 IB	2		
スペイン語 IA	2		
スペイン語 IB	2		
ロシア語 IA	2		
ロシア語 IB	2		

#### ※ 英語科目内容

英語IA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語IB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

#### ※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語IB」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2年次の履修

1年次で履修した2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

### ※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、幅広い教養を修得する。

## 外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。

ロ. 1年次の9月24日（木）～30日（水）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録を必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.14参照）。

ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

### 3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は水曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

- A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
- B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業
- C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

#### 4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

##### 法律学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	法学概論	4	

##### 政治学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎政治学	4	

#### 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

##### 法律学科

必修科目 (48単位)

1年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
憲法	4		刑法Ⅱ	4	各論
民法Ⅰ	4	総則	商法Ⅱ	4	商行為・手形・小切手法
2年次必修			民事訴訟法Ⅰ	4	判決手続
行政法Ⅰ	4	総論	4年次必修		
刑法Ⅰ	4	総論	刑事訴訟法	4	
民法Ⅱ(Ⅰ)	4	物権法			
民法Ⅲ(Ⅰ)	4	債権総論			
商法Ⅰ	4	総則・会社法			
国際法Ⅰ	4	総論・平時国際法			

# 法律学科

選択科目 (38単位以上)

1 年 次 選 択			3 年 次 選 択			
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	
民法Ⅳ(1)	4	親族	労働法	4		
2 年 次 選 択			税法	4		
政治学原論	4		公害法	4	休講	
マス・コミュニケーション論	4		社会保障法	4		
政治史	4		外交史	4		
法思想史	4		国際法Ⅱ	4	戦時国際法	
経済原論	4		国際私法	4		
裁判法	4		時事英語	4		
外国法	英米法	4	演習	4		
	独法	4	外書講読	英書	4	
	仏法	4		独書	4	休講
	社会主義法	4		仏書	4	
3 年 次 選 択				中国書	4	
法社会学	4		スペイン書	4		
行政学	4		4 年 次 選 択			
財政学	4		法哲学	4		
日本法制史	4		民法Ⅳ(2)	4	相続	
西洋法制史	4		倒産法	4	※イ	
国際関係論	4		商法Ⅲ	4	保険・海商	
経済政策	4		知的財産権法	4	※ロ	
社会政策	4	休講	民事訴訟法Ⅱ	4	上訴・民事執行法	
刑事政策	4		政治思想史	4		
比較憲法	4		演習	4		
行政法Ⅱ	4	各論	外書講読	英書	4	
民法Ⅱ(2)	4	担保物権		独書	4	休講
民法Ⅲ(2)	4	債権各論		仏書	4	
地方自治法	4			中国書	4	
経済法	4			スペイン書	4	

※イ、「倒産法」は従前の「破産法」を名称変更したものである。既に「破産法」の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ、「知的財産権法」は従前の「工業所有権法」を名称変更したものである。既に「工業所有権法」の単位を修得した学生は履修できない。



# 政治学科

必修科目 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		政治社会学	4	
2 年 次 必 修			行 政 学	4	
政治学原論	4		国際政治学	4	
日本政治史	4		外 交 史	4	
経 済 原 論	4		政 治 制 度	4	
行政法(総論)	4		4 年 次 必 修		
国 際 法	4		政治思想史	4	

# 政治学科

選択科目 (38単位以上)

1 年次 選択			3・4 年次 選択			
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	
海外政治事情	東アジア圏	4	履修希望者は7地域圏より1科目選択履修すること。 (2科目履修は不可)	政治心理学	4	
	西欧圏	4		財政学	4	
	東欧圏	4		国際経済学	4	
	北米圏	4		日本法制史	4	
	中近東圏	4		西洋法制史	4	
	アフリカ	4		西洋政治史	4	
	東南アジア圏	4		福祉国家論	4	休講
中南米圏	4	休講	経済政策	4		
2 年次 選択			社会政策	4	休講	
社会学原理	4		刑事政策	4		
マス・コミュニケーション論	4		比較憲法	4		
比較社会構造論	4	休講	行政法(各論)	4		
刑法	4		経済法	4		
民法	4		商法	4		
外国法(英米法)	4		労働法	4		
現代政治理論	4	※イ 休講	比較政治学	4		
プロゼミ	2		財政史	4	休講	
3 年次 選択			東洋政治史	4	休講	
演習	4		国際関係論	4		
外書講読Ⅰ	英書	4	国家安全保障論	4		
	独書	4	宣伝広告論	4		
	仏書	4	政党論	4		
	中国書	4	議会関係法	4		
	スペイン書	4	地方自治法	4		
4 年次 選択			国際取引法	4	休講	
演習	4		出入国管理論	4		
外書講読Ⅱ	英書	4	時事英語	4		
	独書	4	地方行政	4	※ロ 休講	
	仏書	4				
	中国書	4				
	スペイン書	4				

※イ. 昭和63年度以降入学生適用 } 昭和62年度以前入学生は履修できない。  
 ※ロ. 昭和63年度以降入学生適用 }

## 6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

### イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。(他学部履修科目一覧表P.13参照)

### ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

### ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

### ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目(他学部履修科目を含む)その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

### ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード(005…)で登録すること。
- (3) 同一名称(開設学科が異なる)の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

### ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』(P.14)を参照のこと。

### ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済 学 科	ソビエト経済論	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			日本経済史	4	3・4	
	哲学史	4	3・4			中小企業論	4	3・4	
仏教 学 科	インド仏教史	4	3・4			教育経済論	4	3・4	
	中国仏教史	4	3・4			アメリカ経済論	4	3・4	
	日本仏教史	4	3・4			財務会計論	4	3・4	
	日用経典	4	3・4			管理会計論	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4		会計監査論	4	3・4		
	現代哲学概説	4	3・4		商業政策	4	3・4		
国文 学 科	上代文学	4	3・4		商 学 科	貿易論	4	3・4	
	中世文学	4	3・4			マーケティング	4	3・4	
	近世文学	4	3・4			原価計算論	4	3・4	
	近代文学	4	3・4			労務管理論	4	3・4	
	中国文学	4	3・4			法律 学 科	民法Ⅳ(1)	4	3・4
英米 文 学 科	英文学特講Ⅰ	4	3・4			民法Ⅳ(2)	4	4	法律学科除く
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			西洋政治史	4	3・4	政治学科除く
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	政治学科除く
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	政治学科除く 休講
	英文学特講Ⅴ	4	3・4			政党論	4	3・4	政治学科除く
	英文学特講Ⅵ	4	3・4		經 営 学 科	経営学史	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4			国際経営論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			経営統計	4	3・4	休講
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			保険経営論	4	3・4	
地 理 学 科	地質学	4	3・4			財務会計論	4	3・4	休講
	人口地理学	4	3・4			経営情報論	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4			経営分析論	4	3・4	
	文化地理学	4	3・4			税務会計論	4	3・4	
歴 史 学 科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講		経営労務論	4	3・4	
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4			商業史	4	3・4	
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4		短 大 国 文 学 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4			国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	
	歴史哲学	4	3・4			国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	
	哲学史	4	3・4			国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	
日本民俗学	4	3・4		国文講読Ⅴ(近・現代)		2	3・4		
社 会 学 科	産業社会学	4	3・4		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
	都市社会学	4	3・4		短 英 文 大 科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
	社会福祉発達史	4	3・4			短 放 射 線 大 科	計算機言語概論	2	3・4

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

## 7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
比較思想特講	4		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
フランス語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
スペイン語 F	2		中国語FLL(初級)	2				
ロシア語 F	2		中国語FLL(中級)	2				

## 8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。

注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

### ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。

修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。



※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部    学科    系列    分野    一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.27参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	4
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実            技		1
講            義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

## Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新規履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

#### II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.14参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日			
授業科目	科目コード	担当	担当コード
ドイツ語 I A	412201	百 済	879
保健体育理論(前期)	414201	長 濱	A10
保健体育理論(後期)			622
宗 教 学 I	410101	平井(俊)	735
論 理 学	410203	國 嶋	306
自然科学概論	410401	宇和川	104

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
(1)	1		ドイツ語 I A	4 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	4 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	4 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	4 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	4 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0 と 6, 1 と 7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### 法律学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学I（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	法学概論（必修）	1
5	専門教育科目	憲法，民法I（必修）	2
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4または5科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	} 5
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

#### 政治学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学I（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎政治学（必修）	1
5	専門教育科目	憲法（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	} 6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

#### 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(火)～7月20日(月)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日(土)～2月3日(水)に実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再試験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月25日(金)～10月1日(木)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(火)～3月1日(月)に実施する。

#### III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験とも行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。



#### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。

なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

## 6. 試験時間

定期試験実施時間(前期)		定期試験実施時間(後期)	
1時限 9:20~10:20	4時限 14:40~15:40	1時限 9:30~10:30	4時限 14:30~15:30
2時限 10:50~11:50	5時限 16:10~17:10	2時限 11:00~12:00	5時限 15:50~16:50
3時限 13:10~14:10		3時限 13:00~14:00	

追・再試験実施時間(前期)
1時限 16:10~17:00
2時限 17:10~18:00

追・再試験実施時間(後期)
1時限 9:30~10:20
2時限 10:50~11:40
3時限 13:00~13:50
4時限 14:10~15:00
5時限 15:20~16:10

試験実施規程(抜粋)が掲載されている(P.31)ので参照のこと。

## 7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数に達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	99単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	98単位以下。または99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

- ※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。
- ※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

## Ⅶ 教職課程・資格講座

法学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	”	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	”	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	”	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

## Ⅷ 事務取扱いについて

### 1. 事務室の事務受付時間

イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。

ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 2. 休 講

イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。

ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。



## IX 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願ひ出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
  - ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
  - ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願ひ出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	I期(前期)分納入済のこと。(II期分免除)
9月21日～11月30日	I期(前期)分・II期(後期)分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

#### 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日

(2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

#### 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

#### 6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

#### 7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部その他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可する。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

#### 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

#### 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部その他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

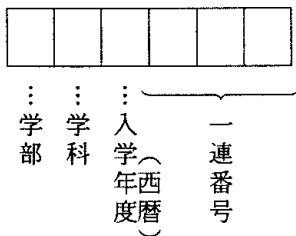
## 11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

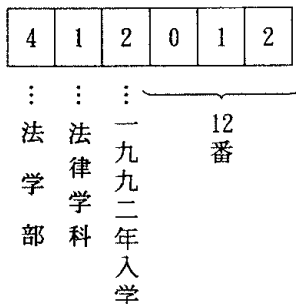
## 12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1992年度入学・法学部  
法律学科12番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

## X 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

### ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

### ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

### ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

## XI 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類		要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届 書	単 位 履 修 届	・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照）	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県 名）変更届	・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付	要	要	
	保証人住所変更届	・所定用紙あり ・変更後1週間以内	要	不要	
	死 亡 届	・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類（写し可）添付	/	要	
願 書	休 学 願	・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・所定用紙あり ・学生証添付	要	要	

## Ⅶ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円）  卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をとまなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

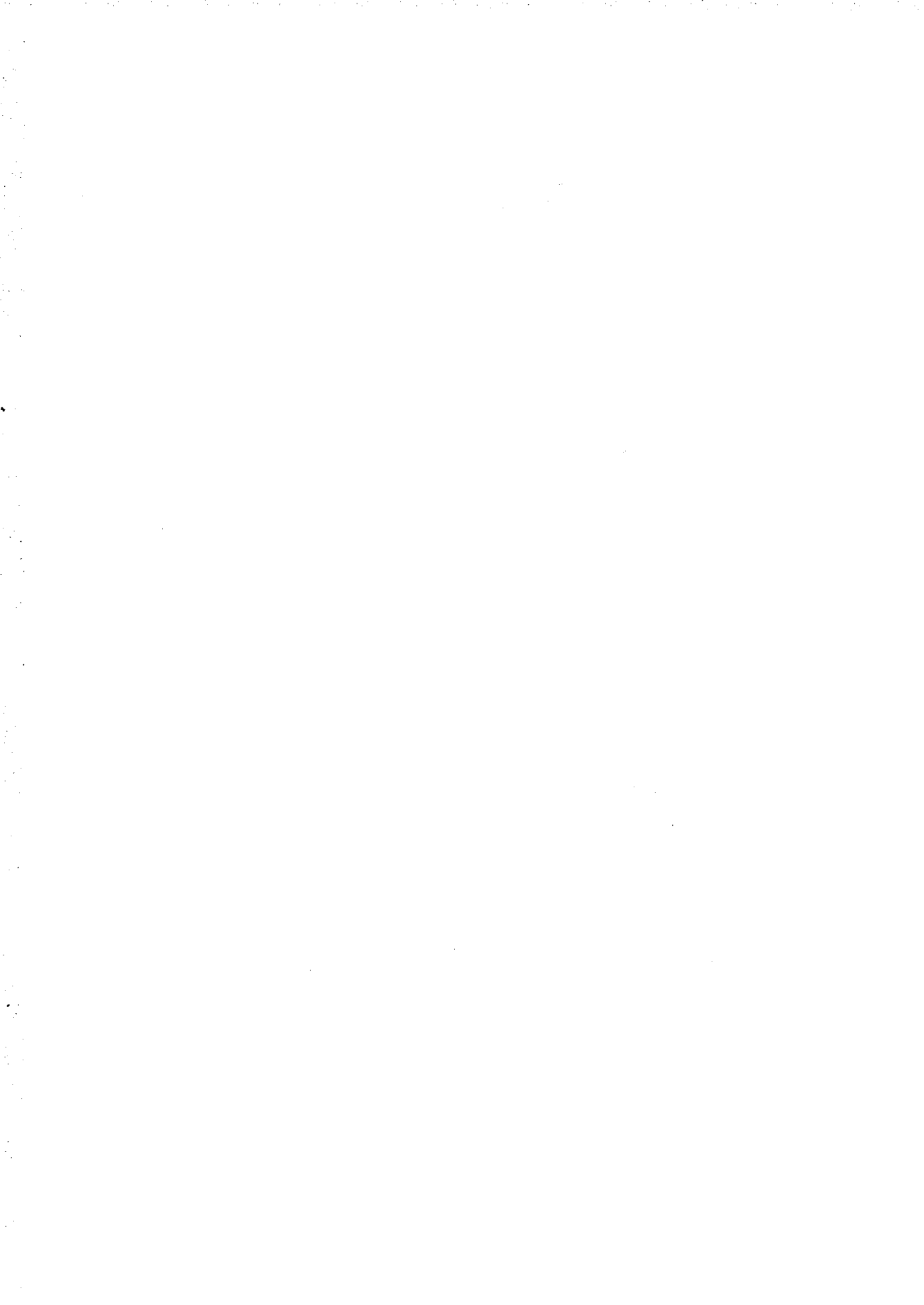


# 講 義 内 容 目 次

一般教育科目（共通） .....	(36)
保健体育科目（共通） .....	(43)
随 意 科 目（共通） .....	(44)
法 律 学 科 .....	(48)
政 治 学 科 .....	(62)
他学部履修科目（共通） .....	(73)

〔卷 末〕

教職および資格講座



## 一般教育科目 (共通)

## 保健体育科目 (共通)

### 人文分野

宗教学Ⅰ (佐藤 憲昭) .....	36
宗教学Ⅰ (山端 昭道) .....	36
宗教学Ⅰ (菅原 壽清) .....	36
宗教学Ⅰ (再クラス) (岡部 和雄) .....	36
宗教学Ⅰ (再クラス) (奈良 康明) .....	36
宗教学Ⅱ (黒丸 寛之) .....	36
宗教学Ⅱ (青龍 宗二) .....	37
宗教学Ⅱ (新井 勝龍) .....	37
宗教学Ⅱ (佐藤 秀孝) .....	37
宗教学Ⅱ (小坂 機融) .....	37
宗教学Ⅱ (佐々木 章格) .....	37
宗教学Ⅱ (永井 政之) .....	37

### 哲学 (小宮山 隆・秋元 ひろと・

重永 哲也) .....	37
論理学 (戸田 洋樹・木原 英逸・	
片桐 茂博) .....	38
倫理学 (國嶋 一則) .....	38
倫理学 (松田 文雄) .....	38
文学 (菌部 幹生) .....	38
文学 (山下 哲郎) .....	38

### 社会分野

法学憲法 (前田 英昭) .....	38
法学憲法 (馬越 道夫) .....	39
法学 (梅木 崇) .....	39
政治学 (福岡 政行) .....	39
社会学 (長谷部 八朗) .....	39
社会学 (橋爪 敏) .....	39
統計学 (飯塚 仁之助) .....	39
文化人類学 (加治 明) .....	40
文化人類学 (蒲原 大作) .....	40
文化人類学 (村武 慶) .....	40
経済学 (小野 俊夫) .....	40

### 自然分野

自然科学概論 (安羅岡 一男) .....	40
自然科学概論 (穴瀬 真) .....	40
自然科学概論 (綾野 雄幸) .....	41
地学 (宇和川 正人) .....	41
地学 (小池 一之) .....	41
地学 (漆原 和子) .....	41
心理学 (法律) (板津 裕己) .....	41
心理学 (政治) (板津 裕己) .....	41
心理学 (高橋 良博) .....	41
環境概論 (前期) (三好 重明)	
(後期) (篠原 正雄) .....	42
生物学 (清水 善和) .....	42

保健体育理論 (大石 武士) .....	43
保健体育理論 (宮沢 栄作) .....	43
保健体育理論 (秋田 浩一) .....	43
保健体育理論 (再クラス) (田中 佳孝) .....	43
保健体育理論 (再クラス) (牧野 茂) .....	43

## 随意科目 (共通)

比較思想特講 (佐々木 宏幹) .....	44
比較思想特講 (洗 健) .....	44
ドイツ語F (栗原 万修) .....	44
ドイツ語F L L (初級) (小林 ゲアリンデ) .....	44
ドイツ語F L L (中級) (松岡 晋) .....	44
フランス語F (加藤 節子) .....	44
フランス語F L L (初級) (遠山 博雄) .....	44
フランス語F L L (初級) (M. マルタン) .....	45
フランス語F L L (中級) (M. マルタン) .....	45
中国語F (釜屋 修) .....	45
中国語F L L (初級) (小川 隆) .....	45
中国語F L L (中級) (戸張 嘉勝) .....	45
スペイン語F (ソニア・エレロ・ガルシア) .....	45
スペイン語F L L (初級) (ホワン・ナバロ) .....	45
スペイン語F L L (中級) (ホワン・ナバロ) .....	45
ロシア語F (杉山 秀子) .....	45
ロシア語F L L (初級) (池田 ガリーナ) .....	46
ロシア語F L L (中級) (池田 ガリーナ) .....	46

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗 教 学 I

佐藤 憲 昭

呪術=宗教は、人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の文化諸領域との関連のもとに考察する。さらに、仏教の基本的な観念や行動についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

佐々木宏幹『聖と呪力—日本宗教の人類学序説—』（青弓社）

方法等について基本的な考え方を概説する。後期においては、前期の講義をふまえて、さまざまな宗教現象のうちから東南アジアの宗教についてもとりあげていくとともに、宗教と法との関わりなど基本的な考え方についても考えていきたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗 教 学 I (再クラス)

岡部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

### 宗 教 学 I

山 端 昭 道

次の点を柱として、講義を進めたい。

1. われわれの周囲には、さまざまな宗教現象やそれに関する事象が在る。それらを知り、現代人としてのわれわれと宗教とのかかわりを考え、また自己自身の確立のために、宗教のもつ価値や意義を問う。
2. わが国の文化や社会、また異なった国々のそれらや人びとを知る上で、その国の宗教理解は欠かせない。過去から現在に至る重要な宗教の諸相へ理解を深める。
3. わが国の年中行事のいくつかをとり上げ、その背後に在る日本人の宗教意識を知り、かつその現代的意義を考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教のおしえ』（東京書籍）

### 宗 教 学 II

黒 丸 寛 之

仏教に対する全般的理解を深めるとともに、禅についての歴史と思想、および禅文化と人間観などについて講述する。

### 宗 教 学 I

菅 原 壽 清

前期において人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の研究領域、研究方法、さらに宗教の分類

## 宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

## 宗 教 学 II

新 井 勝 龍

人間が人間として価値あらしめられるのは、生きる意義の自覚にある。この自覚とは、一言でいえば、自己実現と社会関係の確立に帰する。学問を含め一切の価値ある人間活動は、これをめぐるものに外ならない。禅はこの問題に対し、すぐれた理論と実践による根本的な答をもっている。これは諸部門総合化の現代における、禅の位置を示している。

本講座はこの意味において、禅の特質を明らかにすべく、特に禅の個人観、社会観更に禅の実践論を中心として、現在の自己自身における、絶対的意義把握の道を探究してゆきたい。

〔教科書〕ノートによる。

〔参考書〕田村芳朗『日本仏教史入門』

## 宗 教 学 II

佐 藤 秀 孝

仏教とくに禅を中心に講義を進めていく。内容としては、はじめに現代と宗教、日本人の宗教観、坐の文化などを論じ、その後、禅および中国・日本の禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、禅の真理、禅の生活、禅の行法、禅と日本文化、禅と現代といった問題を考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
¥1,400

## 宗 教 学 II

小 坂 機 融

本講座は宗教学Ⅰを基調とし、特定宗教への関心の有無にかかわらず、宗教的問いがすべてのひ

とに生起してくる根底について考究し、これへの真の応答の在りようを宗教の歴史的諸形態の中に探り、更に禅の簡明直截な修証に焦点をあて、近年特にその歪みが顕在化してきた現代文明社会において、これがいかなる意味をもつかを自然・人間・社会等の諸事象に照らして問うていく。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
『宗教学Ⅱ』（更生社）

## 宗 教 学 II

佐 々 木 章 格

すでに宗教学Ⅰにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学Ⅱにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さは驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

永 井 政 之

宗教学Ⅰのあとを承け「禅」について、その歴史や思想を学びつつ、ますます複雑化する現代に宗教、就中、禅はどのような面で可能性を持ちうるのだろうか。学生諸君とともに考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 哲 学

小宮山 隆・秋元 ひろと  
重永 哲也

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定

の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

### 論 理 学

戸 田 洋 樹・木 原 英 逸  
片 桐 茂 博

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

### 倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

### 倫 理 学

松 田 文 雄

本講座は東洋倫理として開講し、インド・中国・日本の倫理思想を概説する。

〔参考書〕随時指示する。

### 文 学

菌 部 幹 生

社会生活における行動の規範を決定する用件には、法や道徳、社会慣習などさまざまな要素があるが、平安時代の日本では、先例もまた重要な社会規範であった。律令制の崩壊はその傾向に拍車をかけ、貴族たちは先例の記録にかなりのエネルギーを費やすようになる。そしてそれは、例えば『中外抄』や『古事談』のような記録的な要素の強い説話集の中に取り込まれ、さらに『宇治拾遺物語』のような世俗的な説話集の中にも流れ込んでいく。今年度はそうした観点から、比較的読み易く、話材も豊富な『宇治拾遺物語』を中心に説話の解説を行いたいと考えている。

〔教科書〕角川文庫『宇治拾遺物語』

### 文 学

山 下 哲 郎

中世説話文学の代表作の一つ。『宇治拾遺物語』を読む。本書には百九十八話の説話が収録されており、その話題の豊富さや登場人物の多彩さは、読むものを惹き付けずにはおかない。とりわけ、無名の人びとが登場する話からは、当時の人びとの喜怒哀楽の情をも窺い知ることができる。読者はそこに、現代に生きる我々とは異質の人間像を見出し得るだろう。

可能な限り、多くの説話を読んでいきたい。テキストは、〔教科書〕欄に掲げたものを使用するが、古文の読解に自信のない学生は、〔参考書〕として挙げたものを使用されたい。

〔教科書〕三木紀人・小林保治・原田行造編

『宇治拾遺物語』（桜楓社）¥2,185

〔参考書〕日本古典文学全集『宇治拾遺物語』（小学館）

### 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

前 田 英 昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説する

とともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

## 法 学 憲 法

馬 越 道 夫

前期は、法の目的・法の意義・法の生成と発展・近代法の成立・法と政治経済の関係等、法学の基本問題を講述し、後期は憲法・民法・刑法・裁判法等、成文法を講述する。受講者は六法全書を必ず持参すること。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著 馬越道雄著『法学・憲法』（八千代出版）

¥3,500

〔参考書〕高窪利一・高窪貞一編『現代の法学』（蒼文社）

## 法 学

梅 木 崇

一般教養科目としての法学であるが、法学部の学生を対象とするため、わが国の法制度全般にわたって概説する。したがって、「法とは何か」といった高度に抽象的・思弁的な内容はとりあつかわない。また、法の歴史についても必要な限り言及するにとどめる。要するに、現代の法制度、それに則する法現象を対象とするということである。できるかぎり多くの具体的な例をひいて、理解しやすいように努めるつもりである。現在のところ、次のような内容を予定している。

(1)犯罪と法 (2)財産関係と法 (3)労働と法 (4)家族関係と法 (5)法の適用と裁判 (6)法の解釈

〔教科書〕山口・大久保編『法学要説』（芦書房）

## 政 治 学

福 岡 政 行

日本の政治を総合的に解説し、講義する。

- ①政治をみる眼
- ②政治と隣接分野
- ③政治的マニピレーション
- ④政治改革
- ⑤日本政治の構造
- ⑥地方の政治
- ⑦福祉国家日本
- ⑧現代キチソウの位相
- ⑨政治家の実態
- ⑩自民党のリーダー像
- ⑪日本の選挙
- ⑫政治の外周
- ⑬日本の国家位相
- ⑭日本の政治課題

⑮日本の政治過程

⑰国際協調と平和主義

⑯日本の国際化

〔教科書〕追って指示

## 社 会 学

長 谷 部 八 朗

本講義は、私たちの営んでいる社会生活を、個人、集団、(全体)社会といった各分析単位に沿って理解することをめざしている。

講義の大筋は、前期で、こうした分析に必要な基本用語、概念、学説の解説を行い、後期では、これら基礎知識を現実の諸問題を通して具体的に検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久夫・児玉幹夫編著『新版社会学概論』（学文社）

## 社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

## 統 計 学

飯 塚 仁之助

第Ⅰ編 社会統計学の発達過程

第Ⅱ編 社会統計理論

第1章 社会統計学の意義、第2章 統計集団、

第3章 大数の法則、

第4章 大量観察法

第Ⅲ編 統計分析法

第1章 記述統計

第1節 平均, 第2節 散布度,  
第3節 歪度, 第4節 指数,  
第5節 相関  
第2章 推測統計

### 文化人類学

加 治 明

文化人類学とは人類の文化や社会を研究する学問である。ただしこの場合の文化とは広い意味で使われ、人類の生活様式を指し、その範囲は経済・宗教・芸術・道徳等人間生活のさまざまな分野に及んでいる。いっぽう、この学問の特色は、今まで世界各地の「未開」民族の文化や社会を実地に調査、研究し、さらに比較研究等を通して理論化してきたことだが、近年は次第に文明社会も取り扱うようになり、現在では人類全体の文化や社会を研究対象にしていると言える。講義では、人類学（自然人類学と文化人類学）の目的と範囲、経済形態、社会組織、呪術と宗教、政治と法、文化の動態等について解説するが、学生諸君がその内容を身近なものとして受け入れられるよう努力していきたい。

〔教科書〕吉田禎吾・寺田和夫著『人類学入門』（東京大学出版会）¥1,957

### 文化人類学

蒲 原 大 作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粹な形で保っていることの多い未開民族（未開社会）が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』（有斐閣双書）

### 文化人類学

村 武 慶

日本文化を中心に、文化人類学の基本的問題、家族、親族、婚姻、儀礼などをとり扱いたい。  
〔教科書〕村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』（有斐閣Sシリーズ）¥1,545

### 経 済 学

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、現代経済学の成果をも考慮して解説を行なう。  
〔教科書〕未 定

## 自 然 分 野

### 自然科学概論

安 羅 岡 一 男

今日では医学は臨床医学をも含めて自然科学の中の生物学の一分科である。「流行病の学問」として発生した疫学は、最近では「人間疾病の生態学」としてとらえられている。最近重大な関心が寄せられているエイズ、がん、風土病などを例にとり、病気の科学について解説したい。  
〔参考書〕その都度紹介する。

### 自然科学概論

穴 瀬 真

現代科学は文明を築き、人間に物質の豊さを与えてくれた。それらの恩恵によって、われわれは豊かにくらしているといえるが、また大きな問題を投げかけている。

すなわち、環境問題であって、地球環境の悪化が報道されない日はない状況である。この地球規模の環境問題の原因、影響、対策等について説明し、正確な知識の伝達になるようにしたい。問題の解決は難しいが、正しい知識こそ解決への力に



なると思われる。

環境問題として、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化、砂漠化、熱帯林の減少等を取上げ、自然科学、社会科学の双方から論述する。

〔参考書〕環境庁編『地球環境キーワード事典』

## 自然科学概論

綾野雄幸

前半では、自然科学とはどういうものであるか、それは人間の歴史の中でどのようにして生まれ、発展してきたかについて解説し、後半では、日常生活との関連を重視し、私の専門である食を中心にのしほり、食べ物について、最新の科学・技術、食生活、将来の展望などについて述べる。

〔教科書〕小島道也・伊東正編『食べ物の科学（NHKブックス）』（日本放送出版協会）¥750

## 地学

宇和川正人

気、水、地および生物圏を通じて人類とのかかわり合いを主軸に解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

## 地学

小池一之

地球の歴史の中で人類が出現して以来の地球環境の変遷についてのべる。出来るだけスライド、ビデオなどを使用し、地球の姿を鮮明に説明したい。

〔教科書〕日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）¥2,200

## 地学

漆原和子

前期は、主として日本列島の生いたちについて説明する。後期は、最も新しい地質時代である第四紀において人類がどのように自然環境の変遷に

対応してきたかについて説明する。

〔教科書〕『日本の地形』（岩波新書）

〔参考書〕『自然環境の生いたち—第四紀と現在』（朝倉書店）

## 心理学（法律）

板津裕己

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究することによって、「人間とは何か」さらに「自分自身」を明らかにしていこうとする学問である。本講義では、まず最初に心理学研究の輪郭について述べた後、感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動・犯罪や非行への心理学的アプローチなどいくつかの研究領域について話を進めていくつもりである。

〔教科書・参考書〕中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

## 心理学（政治）

板津裕己

本講義では、心理学研究の輪郭・感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動など、いくつかの研究領域について述べていく。今年度は、個人・集団行動、流言や普及過程などの集合心理現象を扱う社会的行動の問題について時間をかけてみたいと思う。

〔教科書・参考書〕中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

## 心理学

高橋良博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気も伝えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

## コンピュータ概論

(前期) 三好重明  
(後期) 篠原正雄

コンピュータとは何かという問題から始めて、アルゴリズムの設計、アルゴリズムの理論、コンピュータ（ハードウェア）の構造、システムソフトウェア等の基本的部分を学びながら、実際にプログラムを組んで、コンピュータというものを概観したい。プログラム言語としては、BASIC と Pascalを用いる予定である。

〔教科書〕講義の際指定する。

## 生物学

清水善和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起源から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦糸に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横糸に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

## 保健体育科目（共通）

### 保健体育理論

大石 武士

体育概念及び保健的な面について。

### 保健体育理論（再クラス）

牧野 茂

健康の正しい認識，健康を阻害する因子，健康・体力づくりを中心テーマとし，具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

### 保健体育理論

宮沢 栄作

心身両面からの健康の条件と，それともなう身体運動の意義について，併せてスポーツと体育の概念的ことがらについてふれていく。

### 保健体育理論

秋田 浩一

健康，体育，スポーツに関する全般的知識，特に「健康」というテーマを心と体の両面から考えていく。また，身体運動，スポーツ，レクリエーションの必要性とその問題点について講義を行なう。

### 保健体育理論（再クラス）

田中 佳孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活をす為に必要な栄養学的知識について，食物とビタミンを中心に講義を行なう。

## 随 意 科 目 ( 共 通 )

### 比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に焦点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

### 比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕 随時指示する。

### ドイツ語 F

栗 原 万 修

日本とドイツの民話を中心に世界の民話をドイツ語で読む。できるだけやさしいものからはじめ、ドイツ語の力がつくようにしていく。いろいろな民俗学的比較なども考察したい。テキストは、プリントで配布する。

### ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

### ドイツ語 F L L (中級)

松 岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履修してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

### フランス語 F

加 藤 節 子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば大作家や詩人たちの作品の抜粋を読んで作品鑑賞も併せてやってゆきたい。

〔教科書〕 プリント

### フランス語 F L L (初級)

遠 山 博 雄

はじめてフランス語を学ぶ学生については、発音練習と基本文型の反復修得を中心に勉強していきます。すでに一通り文法を終えている学生については、まず初等の知識を口と耳で定着させてから先に進みます。いずれにせよ声を出し、耳を慣らすことから始めます。ビデオ等も活用し、簡単な会話が出来るようになることを目的とします。

〔教科書〕 大賀正喜『フランス文法耳から口へ』  
(第三書房) ¥824

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。  
〔教科書〕『Entrée Livre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。  
〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

釜屋 修

中国語一年以上の学習体験をもつ人を対象とする。現代中国の世相を反映したミニ小説(一分間小説)を教材とし、読解力の強化を目標とし、あわせて日常基本会話の練習も行う。中国語と中国に関心を持つ諸君の参加を“熱烈歓迎”!  
〔教科書〕釜屋 修・王迺珍共編『北京文学風景——一分間小説集』(三修社)二月刊行  
価格未定

中国語 F L L (初級)

小川 隆

ビデオやテープを使って、会話と聞き取りの訓練をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。耳と口がヘトヘトになるような授業にしたいと思っています(もちろん皆さんの耳と口です!)

また、時には中国映画を鑑賞して、中国の社会や生活のようすをご紹介しますつもりです。  
〔教科書〕皆さんの希望と実力に応じて選びます。

中国語 F L L (中級)

戸 張 嘉 勝

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。何本かの現代中国映画(ビデオ)も見て、ききとり及び書きとり練習をし、さらにその内容についての会話練習をする。  
〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配りません。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリーオーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。  
〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身に

つけるための平易な読みもの — 最新版のアガニ  
ヨーク、諷刺漫画(クロコディル)、スプートニ  
クなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、  
現代ソ連社会の動向を探っていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (初級)

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を  
学習する。正しいロシア語の発音やイントネーシ  
ョンを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけ  
ることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

ロシア語 F L L (中級)

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得  
な生の言いまわしや、日常会話のイントネーシ  
ョンや、平均的速度になれてもらい、自由な発話へ  
の第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕教場にて指示。

## 法律学科

### 基礎教育科目

法学概論 (佐々木 信) .....	48
法学概論 (大久保 治男) .....	48

### 専門教育科目

1 年次必修科目	
憲 法 (齊藤 寿) .....	49
憲 法 (西 修) .....	49
民法 I (河野 弘矩) .....	49
1 年次選択科目	
民法Ⅳ(1) (青山 尚史) .....	49
2 年次必修科目	
行政法 I (齊藤 寿) .....	49
行政法 I (梅木 崇) .....	50
刑法 I (山口 邦夫) .....	50
刑法 I (前期:鈴木 彰雄) (後期:松村 格) .....	50
民法Ⅱ(1) (青野 博之) .....	50
民法Ⅱ(1) (林 幸司) .....	50
民法Ⅲ(1) (鶴井 俊吉) .....	50
商法 I (関口 雅夫) .....	51
商法 I (島原 宏明) .....	51
国際法 I (東 寿太郎) .....	51
国際法 I (齋藤 洋) .....	51
2 年次選択科目	
政治学原論 (上條 末夫) .....	51
マス・コミュニケーション論 (前期:安川 一) (後期:相田 敏彦) .....	51
政治史 (寺崎 修) .....	52
経済原論 (浅野 克巳) .....	52
法思想史 (金刺 亮介) .....	52
裁判法 (杉浦 智紹) .....	52
外国法 (英米法) (佐々木 信) .....	52
外国法 (独法) (山口 邦夫) .....	52
外国法 (仏法) (上井 長久) .....	53
外国法 (社会主義法) (土岐 茂) .....	53
3 年次必修科目	
刑法Ⅱ (山口 邦夫) .....	53
刑法Ⅱ (前期:鈴木 彰雄) (後期:松村 格) .....	53
商法Ⅱ (荒木 正孝) .....	53
商法Ⅱ (山田 泰彦) .....	54
民事訴訟法 I (杉浦 智紹) .....	54

### 3 年次選択科目

法社会学 (小林 弘人) .....	54
行政学 (桑原 英明) .....	54
財政学 (里中 恆志) .....	54
日本法制史 (大久保 治男) .....	54
西洋法制史 (佐々木 信) .....	55
国際関係論 (首藤 素子) .....	55
経済政策 (森岡 仁) .....	55
刑事政策 (斎藤 静敬) .....	55
比較憲法 (齊藤 寿) .....	55
行政法Ⅱ (齊藤 寿) .....	55
民法Ⅱ(2) (鶴井 俊吉) .....	56
民法Ⅲ(2) (林 幸司) .....	56
地方自治法 (梅木 崇) .....	56
経済法 (川井 克俊) .....	56
労働法 (藤本 茂) .....	56
税法 (金子 昇平) .....	57
社会保障法 (佐藤 時次郎) .....	57
外交史 (首藤 素子) .....	57
国際法Ⅱ (齋藤 洋) .....	57
国際私法 (笠原 俊宏) .....	57
時事英語 (山下 高明) .....	58
演習 (藤本 茂) .....	58

### 3・4 年次選択科目

外書講読 (英) (島原 宏明) .....	58
外書講読 (英) (金子 昇平) .....	58
外書講読 (仏) (荒木 正孝) .....	58
外書講読 (中) (3 選) (江林 英基) .....	58
外書講読 (中) (4 選) (岩崎 皇) .....	59
外書講読 (ス) (細川 幸夫) .....	59

### 4 年次必修科目

刑事訴訟法 (齊藤 誠二) .....	59
---------------------	----

### 4 年次選択科目

法哲学 (矢崎 光圀) .....	59
民法Ⅳ(2) (青山 尚史) .....	59
倒産法 (雨宮 眞也) .....	60
商法Ⅲ (山田 泰彦) .....	60
知的財産権法 (盛岡 一夫) .....	60
民事訴訟法Ⅱ (梅 善夫) .....	60
政治思想史 (小林 正敏) .....	60

# 法 律 学 科

## 基 礎 教 育 科 目

### 法 学 概 論

佐々木 信

法学部一年次生にとって通常要求される今日の法学に関する基礎知識、基礎理論の概略、およびこれらに関連する今日の多様な法的諸問題の考察について必要と考えられる法学方法論の入門的概説を主内容とする。同年次および次年次以降の学習にとって必要な法学学習の精神的準備度の向上が狙いである。

〔教科書〕 佐々木 信『法学・上』（成文堂）

※未定

〔参考書〕 授業の折、適宜指示する。

### 法 学 概 論

大久保 治 男

法学部で学んでいこうとしている諸君に必要な最小限の基礎的概念や理論を概説する。法とは何か、法の目的、法の根拠、法源、法の種類、法の解釈、法の効力、法と国家などの総論と民法、刑法等全体を鳥瞰し2年次以降の法学の各講義がスムーズに受け入れられるべく入門的ガイドを講ずる各論とよりなる。現代社会の諸特質もふまえ、社会が繁栄し、各個人と全体との調和のために最大公約数としての法秩序をいかに合目的に運用していかねばならないかを多角的に分析し、これらの背景になっている法史的、法哲学的、法社会学的問題にふれたり、アップ、ツー、デイトの事例にまで具体的に展開して受講生に法学に対する興味と意欲を起させるよう配慮する。

〔教科書〕 大久保治男著『法学概説』（芦書房）

〔参考書〕 水辺編・大久保他共著『演習ノート法学』（法学書院）

大久保治男著『家族関係』（芦書房）



# 専 門 教 育 科 目

## 1 年次必修科目

### 憲 法

齊 藤 寿

「基本的人権論」と「統治機構論」を中心に、学説・判例・事例研究等を通して、体系化した講義を続け、基本的・強靱な思考力と科学的な創造力とを養いたいと思う。前者の「基本的人権論」では、自由権・平等権・人身保護権・救済権・参政権・社会権などについて講義し、後者の「統治機構論」では、国会・内閣・裁判所・自治体・財政などについて講義する。

〔教科書〕『憲法原理の分析と展開』、『憲法論理の展開』、『憲法要論』など、拙著の中から、講義の際、選択・指示する。

### 憲 法

西 修

日本国憲法が施行されてから45年目を迎えた。ひとつの節目として、これまでの各条項についての学説、判例を中心に検討し、かつ比較憲法的な考察を加え、立体的に組み立てていく予定である。また私が海外留学中、入手してきた貴重な資料などの提供、ビデオの鑑賞などもとり入れ、興味深く、かつ分かりやすい内容にしていきたいと思っている。なお毎時間の講義内容については、別に配布する。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

### 民 法 I

河 野 弘 矩

本講義は、民法第一編「総則」を対象とする。

〔教科書〕河野弘矩『民法総則講義』  
(ぎょうせい)

## 1 年次選択科目

### 民 法 IV (1)

青 山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』(啓文社)

## 2 年次必修科目

### 行 政 法 I

齊 藤 寿

現代国家においては、国民と行政権のかかわり合いが増大しつつある。そこで、行政主体（行政庁）と行政客体（私人）との間の権利義務関係を支配する法理・法原則を究明することは、重要にしてかつ興味深い研究対象の一つとなっている。こうした観点から、本講義は、生きた行政法を重視しながら、次の諸問題を考察する。

(1)行政と行政法の意義 (2)行政法の基本原理  
(3)行政法の法源と効力 (4)行政上の法律関係  
(5)行政行為 (6)行政裁量 (7)行政立法 (8)行政手続 (9)行政契約 (10)行政計画 (11)行政指導  
(12)行政強制 (13)行政罰 (14)行政救済 (15)行政上の損害保障および損失補償 (16)行政争訟

〔教科書〕拙著の中から、開講の際、選択・指示する。

## 行政法 I

梅木 崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解することを目的とする。当然のことであるが、最高裁をはじめとする裁判所の判例を参照しながら、具体的な説明を行い、それを通じて行政法の一般理論の理解に資する。また、すぐれて今日的な問題の理解も必要と思われるので、この点にも意を用いる。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』

〔参考書〕梅木著『やさしい行政法』（有斐閣）  
『行政判例百選 I, II』

## 刑法 I

山口 邦夫

ドイツ刑法を継受した、わが国の刑法を理解するにあたって、その歴史的背景を考慮しながら講義をすすめたい。また、フランス刑法の流れをくむ旧刑法をも参考にしながら、刑法総論の解釈学を行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕山口邦夫『一九世紀ドイツ刑法学研究』  
（八千代出版）

## 刑法 I

（前期）鈴木 彰 雄  
（後期）松村 格

前期の前半において、刑法と刑法学の全体像を罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義といった法原則を中心にして学習し、その後に犯罪論を詳細に勉強していく。したがって、前期後半と後期には行為論・構成要件論・違法論・責任論・未遂論・共犯論・罪数論について、前期の学習でその大要をつかんでから後刻詳しく検討していくこととする。全体的にシステムティックな理解を中心とする。

〔教科書〕①松村 格『刑法学への誘い』  
（八千代出版）

②松村 格『日本刑法（総則講義案）』  
（八千代出版）

〔参考書〕①齊藤誠二編『演習ノート刑法総論』  
平成2年版（法学書院）

②『刑法判例百選 I 総論』（第3版）

## 民法 II (1)

青野 博之

本講義は、民法典の第2編「物権」の第1章から第6章までを対象として行う。不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されるかなど、物権変動を中心に、講義を進める。判例・学説がどのような事案でどういう解決をめざしているかに関心を持って、講義を聴きにきてほしい。受講生からの質問は大歓迎である。

教科書は下記のものを使うが、ほかに自分で気に入ったものがあればそれでもよい。

〔教科書〕遠藤 浩ほか編『民法(2)物権』  
（有斐閣）

## 民法 II (1)

林 幸司

民法典の第二編「物権」のうち、第一章「総則」（いわゆる物権法総論）、第二章「占有権」、第三章「所有権」、第四章「地上権」、第五章「永小作権」、第六章「地役権」、及び「入会権」について講義する。

なお、本講では、この分野に関する各法制度や権利が「受講者自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し、『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえるよう努力していきたいと考えている。切り立った崖もあれば、樹海もある「民法山脈」を、いっしょに登りながら道標を示すことができれば幸である。ともかく、すべては講義へ出席することからはじまる。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕随時指示する。

## 民法 III (1)

鶴井 俊吉

民法Ⅲ(1)は、民法典のうち第三編「債権」の第一章「総則」、いわゆる「債権総論」と呼ばれる部分を本講義の対象とする。

債権総論は、一般的・抽象的でよく解り難いといわれているが、それは債権をその成立の原因から切り離して抽象的に取扱い、その性質ないし効力の共通の部分の規定するものだからである。

講義では、できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定である。

〔教科書〕遠藤・川井他編『民法(4)債権総論』  
(有斐閣双書)

いている法としての理解をめざすものである。  
〔教科書〕桜井光堂『改訂 国際法』(有信堂)

## 商 法 I

関 口 雅 夫

商法Iは、商法学のうち、「商法総則」および「会社法」を、主要な対象としている。

本講義は、平易を旨とし、商法Iを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識を修得することを目的とする。

〔教科書〕関口雅夫編著『商法I(総則・商行為)』

(八千代出版) ¥2,800

関口雅夫編著『商法II(会社法)』

(八千代出版) ¥2,800

## 2 年 次 選 択 科 目

### 政治学原論

上 條 末 夫

法学を学ぶためには、政治学の素養を欠くことができない。本講義は国家および権力をキイ概念として、政治の本質を解明することに主眼をおく。日本の政治を例示し、またそれと諸外国の政治とを比較することによって理解を深め、随時、時事問題も取り上げて興味のもてる講義内容とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕堀江 湛ほか『政治学の方法とアプローチ』(学陽書房) ¥2,800

## 商 法 I

島 原 宏 明

現代資本主義社会において最も典型的な企業形態とされる株式会社の制度を中心として、現行商法を解説していく。

〔教科書〕高島正夫『新版 会社法』(慶応通信) ¥3,296

〔参考書〕開講時に指示する。

### マス・コミュニケーション論

(前期) 安 川 一  
(後期) 相 田 敏 彦

## 国 際 法 I

東 寿 太 郎

国際法の構造と機能、国際法における国家の地位と責任、地的・人的管轄権など、国際法の骨格を形成する分野について講義を行う。法原則の政治的、経済的、社会的基盤の理解の上に、法概念の確実な把握ができるよう配慮したい。

〔教科書〕小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』(有斐閣)

「現代社会=文化におけるマス・メディアの位置と機能」を主要テーマとする。最近注目を集めた出来事や話題(例えば、有害コミック規制問題、様々な犯罪報道、セクシュアル・ハラスメント、等々)に関わるメディア現象の分析を絡めながら、マス・コミ研究の膨大な理論的・実証的蓄積を、あらためて現代社会=文化論として再構成していく。そうした中で、マス・メディアと政治過程、マス・メディアと日常生活、マス・メディアと大衆文化、メディア・リテラシーとリアリティ構成、等々の論点を浮かび上がらせていく。

基礎的なデータ等は教科書を参照。適宜、資料を配付し、参考書等を指示する。

〔教科書〕香内三郎他『現代メディア論』(新曜社)

〔参考書〕適宜指示します。

## 国 際 法 I

齋 藤 洋

本講座は、国際法の全体系のなかで、平和的国際関係における法領域を概観する。国際法の歴史から始めて、基礎理論、法の主体と客体、国際法律行為、紛争の平和的処理を中心に、国際法の基礎知識の修得と、国際社会で実際に生きてはたら

## 政治史

寺崎 修

近代日本政治史上の諸事件を素材に、近代日本の形成過程をわかりやすく説明する。これまで不明とされてきた問題や、今日、比較的軽視されている問題についても言及するつもりである。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 経済原論

浅野 克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。なお、公務員試験（その他国家試験）の受験志望者には必要に応じて問題の解説も行うので、以下の問題集も用意されたい。

- I ミクロ経済学の理論
  - 1. 消費者行動の理論
  - 2. 企業行動の理論
  - 3. 市場と価格決定
- II マクロ経済学の理論
  - 1. 経済循環と国民所得の概念
  - 2. 国民所得の決定
  - 3. 経済の変動と成長
- III 公共政策
- IV 国際経済学

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1988年、¥3,400

〔参考書〕青山編著『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1990年、¥906

## 法思想史

金刺 亮介

プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、ホッブズ、ロック、ルソーなどの、法思想史上古典とされる作品を取り上げ、支配と自由、秩序と自由という観点から講義していく予定です。

〔参考書〕三島淑臣『法思想史』（青林書院新社）

## 裁判法

杉浦 智紹

本年は、現代の裁判制度を学生諸君に的確に把

握してもらえる様に講義を進める予定である。講義の内容はⅠ. 裁判所の機構論、裁判官論、検察官論、弁護士制度、公証人制度、ならびに法曹教育問題、Ⅱ. 裁判の本質論、裁判の審理と促進に関する問題、各種裁判の手続等についてその概要を述べた上、その問題点などを指摘しながら論究すると共に、三年次以後の訴訟法を勉強するための基礎が形成できるよう、手続法の原理など基本的な事項について言及するよう努める。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 外国法（英米法）

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law Systemと称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木 信『イギリス法学講義 上』（成文堂）¥未定

## 外国法（独法）

山口 邦夫

この講義の目的は、単なる外国法のひとつとしてのドイツ法を説くのではなく、また比較法のために一國法としてのドイツ法を説くでもない。それは、わが国が明治時代以降、いくつかのヨーロッパの法を継受した歴史的事実を基礎に、わが国の諸法律および法思想に多大なる影響を与えた外国法のひとつとしてのドイツ法を講義することにある。したがって、おもに19世紀以降のドイツ法と日本の法律との関連を、「法学入門」風に講義することとなる。

前期は、憲法をはじめとするおもな法典についての概略を説明し、後期には、それらの背景となった法思想を、著名な法思想家を中心に講義を進めたい。

受講者の条件として、一年次においてドイツ語を履修したか、あるいはドイツ語に興味をもって、みずから学ぶ意欲のあることが望ましい。

### 3 年次必修科目

#### 外国法(仏法)

上井長久

一般に外国法を学ぶことは、外国の法思想・法制度・法原理の意義、機能及びその歴史的、社会的背景などを探ることであり、同時にそれらを通して外国法に固有の考え方や見方を会得することである。外国法の学習はまた、わが国の法への理解にも役立つ。とくに、フランス法はわが国の法に対して過去においても現在においても大きな影響を及ぼしており、わが国の法を理解する上でも重要である。

本講は、主として、フランス私法を理解する上で必要な、フランス古法、革命期の法、法典編纂及びその後の変遷、自然法、権利と法、司法制度など基礎的問題を説明してゆく。適宜、わが国の法との関連もみてゆく。

〔教科書〕開講のときに、プリントを配付する。

〔参考書〕開講のときに掲げる。

#### 外国法(社会主義法)

土岐茂

今日の社会主義諸国の変化は、改めて「社会主義」とは何だったのかを問い直さざるを得ない大きな問題を提起している。その意味で、今年度は現代中国の法の姿をとくに「民主主義」の観点から分析することを課題としたい。

講義内容は、主に教科書の第2部に対応するものとなる予定である。したがって、学生諸君にはあらかじめ該当部分を読んでくることを望みたい。

また、ソ連・東欧およびその他の社会主義国の法の動向に注意し、重要問題があれば授業時にとり上げていきたい。

〔教科書〕小口彦太、木間正道、田中信行、国谷知史『中国法入門』(三省堂) ¥2,400

〔参考書〕社会主義法研究会編・社会主義法研究年報No.10『変動する社会主義法』(法律文化社) ¥2,800

#### 刑法Ⅱ

山口邦夫

法益による犯罪の分類が、現在、通説的な説明方法となっているが、各犯罪類型のもつ歴史的背景を加味しつつ、その犯罪類型の論理構造を解明しながら講義をすすめたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

#### 刑法Ⅱ

(前期) 鈴木彰雄  
(後期) 松村格

前期では財産犯について主として学習していく。後期には、人工受精、脳死と臓器移植、安楽死、公害被害児、コンピューター犯罪、磁気カードの改ざん、贈収賄罪など現代まさに問題になっている重大犯罪をテーマにとりあげて、生命や暴力・傷害の概念、財産や文書の概念について全員で考えてみたいと思う。教科書の各箇所にもわたって同時に学習していくし、時には教科書をはなれることもあるので、毎回出席していないと理解できなくなる。

〔教科書〕松村格『日本刑法(各則講義案)』(八千代出版)

〔参考書〕ジュリスト刑法判例百選Ⅱ各論(1992年版)(有斐閣)

#### 商法Ⅱ

荒木正孝

手形法・小切手法と商行為法が講義の対象であるが、授業時間の制約があるので、現代の商取引において信用や支払の用具として重要な意義をもつ手形・小切手に関する法理論や判例等を検討し、時間が許せば、商行為法にも言及することにした。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕随時指示する。

## 商 法 Ⅱ

山 田 泰 彦

前半は、商行為法を概観する。ただし、運送法は、商法Ⅲで採り上げることにして、最小限にとどめたい。また、交互計算、匿名組合も省略し、商事売買およびその補助商を中心に講義する。後半は、有価証券法、とくに手形法を約束手形を中心として、法制度の全体構造とその理論状況を講義する。

〔教科書〕倉沢編『手形法・小切手法 100講』  
(学陽書房)

## 民事訴訟法Ⅰ

杉 浦 智 紹

「訴訟」は訴訟法と実体法を総合する場であり、民事訴訟法学は「民事訴訟」をその学問対象とする。訴訟構造は、總ての審査手続の範型をなすものであるから、学生諸君は等しく研究することが必要であると思う。

講義は、判決手続を中心に、民事訴訟の基礎理論からはじめて、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟行為論、第一審訴訟手続論及び裁判論へと進める予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。  
〔参考書〕開講時に指示する。

## 行 政 学

桑 原 英 明

この授業では、現代社会の変化と行政活動との関連について理論的・経験的に検討する。とりわけ、現代社会と行政の国際化に焦点をあてる。

〔教科書〕福田耕治『現代行政と国際化』  
(成文堂)  
『政策形成と行政官の役割』  
(行政管理研究センター)

## 財 政 学

里 中 恆 志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主的な手続をとおしてであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を養う。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 日本法制史

大久保 治 男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他にOHP、スライド、ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新、永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘、探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立つ、多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男他著『日本法制史』  
(高文堂出版社)  
〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』  
(六法出版社)

## 3 年次 選 択 科 目

## 法 社 会 学

小 林 弘 人

前期は、法社会学の基礎理論(学説の説明が中心になる)の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕及川 伸著『法社会学入門』(新版)  
(法律文化社)  
〔参考書〕六本佳平著『法社会学』(有斐閣)

## 西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について、(2)ヨーロッパの法文化における諸要素について、(3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について、(4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので、上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では、今のところ、企画はあるものの、適当な教科書はないので、学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

〔教科書〕特に指定しない。場合によってはプリントを用意する。

- IV. 経済の成長政策
- V. 経済の安定政策
- VI. 産業組織政策
- VII. 社会均衡化政策
- VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡（他）『現代経済政策』

（千倉書房）¥2,300

## 刑事政策

斎藤 静 敬

刑事政策は、犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探究する学問である。そこで、犯罪の現象と原因を考察し、その対策を概説する。例えば、身体構造、知能、性格、年令、家庭、婚姻、教育と犯罪。仮釈放、起訴猶予、執行猶予、刑罰……など。

## 国際関係論

首藤 素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻（東大出版会）1989年、¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』改訂版（有信堂高文社）1991年

## 比較憲法

斉藤 寿

人権保障制度、司法制度、国会制度、内閣制度、自治制度など、各国の憲法諸制度について、興味深い講義を続けながら、楽しく研究します。

また、西欧主要国の憲法にとどまらず、アジア・アフリカ諸国や、中南米諸国の憲法にもふれ、その特色を楽しく研究します。

これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 経済政策

森岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが、ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうるように講義を進める。内容は以下のとおりである。

- I. 現代経済と経済政策
- II. 経済政策学的发展
- III. 現代経済政策の課題

## 行政法Ⅱ

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽し

い雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房），  
『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙  
著の中から、講義の際、選択・指示し  
ます。

## 民法Ⅱ(2)

鶴井俊吉

民法Ⅱ(2)は、担保物権法を対象とする。担保物権法は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法部門で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、そして著しく変動している。

講義では、民法典の第二編「物権」の留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等がその内容となる。物的担保制度の基礎的原理については、できるかぎりわかりやすく、具体的事例などをあげて解説する。

〔教科書〕遠藤・川井・原島他編『民法(3) 担保物権』（有斐閣双書）¥1,400

## 民法Ⅲ(2)

林幸司

「債権各論」と呼ばれている分野、すなわち、債権の発生原因である、①契約・②事務管理・③不当利得・④不法行為について講義する。ともかく、ビジネスにおいても日常生活においても、この分野に関するトラブルは非常に多い。従って、「民法はこれらのトラブルにどう対処するのか」を理解しておくことは、諸君自身の将来にとっても重要であろう。

なお、本講では、この分野に関する法制度や権利・義務が「受講者自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し、『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕随時指示する。

## 地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 経済法

川井克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他の私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭『競争政策法概説』（高文堂）  
¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克倭著『カルテルと課徴金』  
（日本経済新聞社）

## 労働法

藤本 茂

わが国労働法は、戦後、戦前の労働保護法制を受け継ぐとともに、国際的規準を受け入れたり、アメリカ法制を導入するなどして、発展してきました。その法理は、社会経済構造の変化、労働運動のあり様や社会生活における労働者意識の変化



などによって、たえず既存の法理の妥当性が検証され、深化してきました。雇用平等、労働時間、労働協約、組合活動保障など、現在もそうです。

他方、諸君にとって労働法は、将来就職し労働生活をおくるなかで、最も身近な法領域であるといえます。

授業は、諸君が見聞きするであろう事項を念頭に、それについての基礎的な考え方を、具体的な事例を取り入れておこなうつもりです。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』

(有斐閣) ¥2,200

菅野和夫著『労働法』(弘文堂)

## 税 法

金子昇平

租税法の基礎的原理および租税法体系についての法の仕組を明らかにすることにより、個別的、具体的な租税事件を検討しながら“あるべき租税法”とは何か、を解明していきたい。

〔教科書〕金子 宏『租税法』(弘文堂)

¥3,800

## 社会保障法

佐藤 時次郎

### I 社会保障法総論

1. 社会保障立法の推移
2. 社会保障法の概念
3. 社会保障法の体系

### II 社会保障法各論

1. 雇用保険法
2. 労働者災害補償保険法
3. 健康保険法・国民健康保険法
4. 厚生年金保険法
5. 国民年金法
6. 国家的扶助金法

上記項目に従いその要点につきノートを取らせ、問題点に関する学説、判例、裁定例及び現実に生じた事件等に解説を加える。

〔教科書〕佐藤・慶谷・志賀共著

『社会保障法講義ノート』(蒼文社)

## 外交史

首藤 素子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には日本の南方進出と東南ア

ジアにおける軍政の展開まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西欧列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

## 国際法 II

齋藤 洋

現在われわれは平和を満喫し、世界中で経済活動を行ない、あるいは旅行に出かけている。しかしその一方で全世界では戦争や内乱などが数多く発生しており、われわれがそれらに巻き込まれる可能性も極めて高くなっている。その時われわれはいかに行動すべきか？いかなる権利を与えられ、義務が課せられるのか？それらを定めるのが戦時国際法である。

本講座では、戦争に対する考え方の変遷から始まり、戦時国際法上の一連の基本原則を講義することで、基礎知識の修得をめざしたい。その際、政治的な宣伝や言動に迷わされないためにも、用語及び各事項の正確な概念定義を身につけてほしい。

〔教科書〕桜井光堂『改訂 国際法』(有信堂)

## 国際私法

笠原 俊宏

渉外的要素を有する私法上の問題の規律を目的とするのが国際私法である。講義においては、わが国の法源である法例およびいくつかの特別立法について解説し、さらに、国際私法の展望として、画期的に変化しつつある準拠法決定の構造に論及したい。なるべく身近な問題を想定することにより、理解しやすいものとなるよう工夫するつもりである。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 時事英語

山下高明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英字紙を読解できるようになることは21世紀が求める国際人にとって欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語に特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕中村憲明編『英文ニュース入門』

(成美堂)

石黒・島中共著『5分間英和翻訳』

(南雲堂)

## 演習

藤本茂

戦後出発した、わが国労働法は、産業構造の変化に伴う労働態様の変化、労働運動の変遷、労働者意識の変化などに応じて、従来の理論を検証し、深化してきました。現在も同様で、男女雇用機会均等と雇用確保、労働時間法改正、企業内労働条件決定の手續・方法、配転・出向などが、課題として挙げられます。また、労働法理の発展に果たす判例法理の役割は、見過ごせません。

本演習では、基礎的知識を学びつつ、関心のあるテーマを選んで、自分で勉強し、報告してもらい、議論していく方法を取りたいと思います。また、夏季などに研究合宿を実施したいと思います。演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくことです。評価はその次、です。

〔教科書〕開講時に、話します。

〔参考書〕必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。

## 3・4年次選択科目

### 外書講読(英)

島原宏明

イギリスの私法に関する基本書の中から記述の

平易なものを選んでいっしょに読み進めていくつもりである。具体的な授業の進め方については受講生諸君と相談して決めたい。

〔教科書〕プリントを配布する。

### 外書講読(英)

金子昇平

前期はアメリカ憲法を逐条的に読み、基本的人権と統治機構に関して、どのような憲法問題が存在するのかを明らかにしていきたい。後期はアメリカ最高裁判所の判例を読み、判例の研究にウエイトを置いた講義をしていく。

〔教科書〕開講時にプリントを配布する。

〔参考書〕講義内容に応じて適宜指示する。

### 外書講読(仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母法国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組やその文化的・社会的背景などについて理解を深めてゆく。受講者は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

### 外書講読(中)(3選)

江林英基

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解読しながら、国家政治機構および国民の基本的人権についての規定を比較しながら授業を進めていく。さらに、政治と法律に関する文章の文型を解説する。

〔教科書〕江英居著『中国憲法』(大学書林)

〔参考書〕『六法全書』(台北 三民書局)

『中華人民共和国法律匯編』

(北京 人民出版社)

外書講読(中) (4選)

岩崎 皇

《一个日本人眼中的新旧中国》を読みます。この本の原著「北京三十五年」(岩波新書)は、1945年から'80年までの中国の社会状況を、民間人のレベルから記録したもので、中国研究の資料として高い評価を得ています。

授業は長文を読むための訓練ですから、多少の予習が必要です。

外書講読(ス)

細川 幸夫

学生諸君が、1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕開講時に指示します。

## 4 年次必修科目

刑事訴訟法

齊藤 誠二

刑事訴訟の制度は、その時代のその国の社会的・文化的・政治的な要請を鋭く反映する法制度である。ここでは、刑事訴訟の流れにそって現代のわが国の刑事訴訟が当面しているいろいろの問題を分析しながら、わが刑事訴訟が歩む方向を考えていく。また、刑事訴訟はひじょうに実践的な性格をもつものでもある。そこで、ここでは、ただ、刑事訴訟の理論的な分析ばかりではなくて、実際に訴訟の場でおこなわれている姿が多く語られることになるであろう。さらに、現代の刑事訴訟は、刑事司法という形で、刑事政策と深くむすびついている。ここでは、いつも、こういう方向でのアプローチも心掛けていくつもりである。

〔教科書〕齊藤誠二編『刑事訴訟法』(八千代出版)が予定されている。

〔参考書〕松尾浩也『刑事訴訟法』  
〔上・下I・II〕(弘文堂)  
鈴木茂嗣『刑事訴訟法』

(青林書院新社)

横川敏雄『刑事訴訟』(成文堂)

福井厚『刑事訴訟法』(有斐閣)

## 4 年次選択科目

法哲学

矢崎 光圀

現代は変動の時代である。法もまた変わる。たとえばヨーロッパ共同体・EC法のような新しい法モデルの出現!情報化社会、高度技術化社会…といわれる現状のなかで法はどんな役割を果しているか、また果すべきであるか?このような疑問はすでに「法とは何か」と「法はどう在るべきか」という法哲学上の、古くて新しい基本的な問いかけを含んでいる。こうしてみると、法哲学は私たちが身近をふり返り、それと法とのかかわりを模索し思案し反省するところからはじまるのではないか。こういう角度、法と人間の角度から上記の課題のほか、法の解釈の課題などに少しづつ入ってみよう。

〔参考書〕矢崎光圀『日常世界の法構造』

(みすず書房) ¥3,000, その他。

講義の早い段階で参考文献の紹介をする。

民法IV(2)

青山 尚史

民法IV-(2)は、相続法(民法典第5編 882条~1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺言分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『相続法講義』(啓文社)

## 倒産法

雨宮 眞也

倒産は、社会の縮図であり、生きたドラマである。倒産において、経営者、債権者、従業員その他関係者の利害は、最も鋭くからみあい対立する。これを解きほぐし、妥当な処理を行うためには、破産法、会社更生法のみならず、民法、商法、借地借家法、労働法、民事訴訟法、民事執行法などを総合的に活用していかなければならない。倒産法を学習することは、これらの諸法の復習、集約としての意味をも持つであろう。

〔教科書〕伊藤 眞『破産法〔新版〕』（有斐閣）

## 民事訴訟法Ⅱ

梅 善夫

民事訴訟法第3編上訴および民事執行法について講義する。年間講義予定時間のうち3分の1を上訴に、3分の2を民事執行法にあてる。平成3年1月1日から施行された民事保全法についても触れる予定である。第1回目の講義の時に年間の講義予定表を配付する。

〔教科書〕住吉 博編『演習ノート民事執行法』（法学書院）¥1,600

〔参考書〕新堂幸司・竹下守夫編『基本判例からみた民事執行法』（有斐閣）

## 商法Ⅲ

山田 泰彦

複雑・高度化した社会生活は、様々な危険に満ちている。危険が顕在化し、自分がその被害者となったり、あるいは加害者の立場に心ならずも立ったとき、自己の被った損害をどのように補填し、またどのようにして損害を賠償すべきか。これを社会的なリスク配分のもと、社会的に担うものとして保険法がある。現代生活において、保険法の果たす役割は、ときとして決定的ですらある。また、四囲を海にかこまれた日本が、国際取引を積極的に展開することで、今日の経済大国に結実したのは周知であるが、こうした国際取引の基礎となるものに、海上運送があるのであって、これに関する法律の意義は大きい。前期は、保険法を、後期は海商法を概観する。

〔教科書〕平出・田村編『現代法講義、保険法・海商法』（青林書院新社）

## 政治思想史

小林 正敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

## 知的財産権法

盛岡 一夫

企業が発展するために必要なことは、優秀な技術を開発することであり、そのために企業は巨大な投資をしている。そこで、前期は、発明はどのような手続によって特許権を取得するのか、従業者が発明した場合の法律関係、特許権の保護、ノウ・ハウ、トレード・シークレット（企業秘密）およびコンピュータ・ソフトウェアの保護等について講義する。後期は、意匠法、商標法等の工業所有権法および著作権法について解説する。

〔教科書〕盛岡一夫『工業所有権法概説』（法学書院）

## 政治学科

### 基礎教育科目

基礎政治学 (浦田 早苗) .....	62
基礎政治学 (前田 英昭) .....	62
基礎政治学 (小林 正敏) .....	62

### 専門教育科目

#### 1 年次必修科目

憲法 (竹花 光範) .....	63
------------------	----

#### 1 年次選択科目

海外政治事情 (東アジア圏) (竹花 光範) .....	63
海外政治事情 (西欧圏) (佐藤 恭三) .....	63
海外政治事情 (東欧圏) (小林 正敏) .....	63
海外政治事情 (北米圏) (小堀 訓男) .....	63
海外政治事情 (中近東・アフリカ圏) (山下 高明) .....	63
海外政治事情 (東南アジア圏) (首藤 素子) .....	64

#### 2 年次必修科目

政治学原論 (大谷 博愛) .....	64
日本政治史 (寺崎 修) .....	64
経済原論 (浅野 克巳) .....	64
行政法 (総論) (梅木 崇) .....	64
国際法 (東 寿太郎) .....	64

#### 2 年次選択科目

社会学原理 (渡辺 源樹) .....	65
マス・コミュニケーション論 (前期: 安川 一) (後期: 相田 敏彦) .....	65
刑法 (山口 邦夫) .....	65
民法 (林 幸司) .....	65
外国法 (英米法) (佐々木 信) .....	65
プロゼミ (小林 正敏・小堀 訓男・ 寺崎 修) .....	65
プロゼミ (早川 純貴) .....	66
プロゼミ (浦田 早苗) .....	66
プロゼミ (前田 英昭) .....	66

#### 3 年次必修科目

政治社会学 (上條 末夫) .....	66
行政学 (桑原 英明) .....	66
国際政治学 (小堀 訓男) .....	66
外交史 (首藤 素子) .....	66
政治制度 (前田 英昭) .....	67

#### 4 年次必修科目

政治思想史 (小林 正敏) .....	67
---------------------	----

#### 3・4 年次選択科目

外書講読 I・II (英) (首藤 素子) .....	67
外書講読 I・II (英) (佐藤 恭三) .....	67
外書講読 I・II (英) (竹花 光範) .....	67
外書講読 I・II (独) (早川 純貴) .....	67
外書講読 I・II (仏) (荒木 正孝) .....	67
外書講読 I (中) (3 選) (江林 英基) .....	68
外書講読 II (中) (4 選) (岩崎 皇) .....	68
外書講読 I・II (ス) (細川 幸夫) .....	68
政治心理学 (上條 末夫) .....	68
財政学 (里中 恆志) .....	68
国際経済学 (徳永 俊明) .....	68
日本法制史 (大久保 治男) .....	68
西洋法制史 (佐々木 信) .....	69
西洋政治史 (浦田 早苗) .....	69
経済政策 (森岡 仁) .....	69
刑事政策 (斎藤 静敬) .....	69
比較憲法 (竹花 光範) .....	69
行政法 (各論) (梅木 崇) .....	69
経済法 (川井 克倭) .....	70
商法 (関口 雅夫) .....	70
労働法 (藤本 茂) .....	70
比較政治学 (大谷 博愛) .....	70
国際関係論 (首藤 素子) .....	70
国家安全保障論 (小堀 訓男) .....	71
宣伝広告論 (上條 末夫) .....	71
政党論 (早川 純貴) .....	71
議会関係法 (前田 英昭) .....	71
地方自治法 (梅木 崇) .....	71
出入国管理論 (竹内 昭太郎) .....	71
時事英語 (山下 高明) .....	72

# 政治学 科

## 基礎教育科目

理論と現実がかみ合うように心がけたい。

〔教科書〕小林正敏他著『政治学講義』（成文堂）

### 基礎政治学

浦田早苗

本講座は、複雑かつ国際化された現代の政治を誤りなく把握する上で必要な基礎知識を概論し、併せて政治学の専門分野への導入をはかるものである。

政治と政治学の基礎用語の解説、及び政治の機構、理論、過程を考察していくが、政治的視野の拡大のため、適宜時事問題もとり上げていく。

〔教科書・参考書〕開講後、追って指示する。

### 基礎政治学

前田英昭

本講座では、政治学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につけるとともに、今日の政治現象を考えながら、政治学の専門分野に進むための準備ができるよう心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

### 基礎政治学

小林正敏

本講座は「政治学入門」のために設けられているものである。従って、まず政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の諸領域を学ぶについて必要とされる基礎的知識を身につけることを目的としている。

また本講座は2年次に配当されている政治学原論と不可分の関係にあり、基礎的、全般的であると同時に、選挙制度、国際機構、政治思想、民主政治論などにはとくに力をいれ、政治学原論と合わせて全体をカバーすることになっている。講義にあたって、随時、時事的な問題も取りあげて、

# 専門教育科目

## 1 年次必修科目

憲 法

竹 花 光 範

まず、日本国憲法成立の経緯と法理について述べ、ついで日本国憲法の特徴について述べる。その後、日本国憲法本文の各条について講義するのであるが、時間的に逐条的講義には限界があるので、各章ごとに規定内容と問題点を整理し、日本国憲法の存在性格が理解できるような講義としたい。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

が政治を歴史적으로とらえていこうというわけです。とりあえず、近代ヨーロッパ史の大きな“うねり”となった19世紀中葉を講義のスタートとします。

〔教科書〕特に指定しません。

〔参考書〕R. Langhorne, *The Collapse of the Concert of Europe* (Macmillan, 1981); F. H. Hinsley, *Power and the Pursuit of Peace* (C. U. P. 1967); 北原 敦他編『ヨーロッパ近代史再考』(ミネルヴァ書房, 1983)

海外政治事情 (東欧圏)

小 林 正 敏

1989年以来の改革によって、政治的概念としての「東欧」は大きく変容した。この講義では、多様化する旧「ソ連・東欧圏」諸国の政治を中心に、その国際関係、社会構造等にも論及することにした。

## 1 年次選択科目

海外政治事情 (東アジア圏)

竹 花 光 範

本講義の中心は、中国の政治事情である。時間が許せば、その他、南北朝鮮、モンゴルについても論及したい。なお、講義の内容は、過去から現在にいたる政治事情の変遷が中心になるが、できるかぎり、時事的な問題もとりあげてコメントしていくつもりである。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

海外政治事情 (北米圏)

小 堀 訓 男

前期は、アメリカ史を概観し、「アメリカの民主主義」にキリスト教が、どのような影響を与えたか、を中心に考察する。

後期は、ルーズベルト大統領からレーガン大統領までの、アメリカ政治の特徴を、各大統領のおこなった政策決定という側面から観察して、アメリカ政治を理解する。

〔教科書〕講義中に指示する。

海外政治事情 (西欧圏)

佐 藤 恭 三

日々生起する事象を知るだけで、現実がわかるわけではありません。現実の基底には“時”の流れがあります。この講義をこういう視点から取り組むつもりです。つまり変貌著しい現代のヨーロ

海外政治事情 (中近東・アフリカ圏)

山 下 高 明

世界最大の産油地帯中近東・北アフリカは複雑な各国政情にくわえ米・ソ超大国の戦略がからみ合うきわめて重要な地域である。しかもこの地域ではパレスチナ紛争、イラン革命、イラン・イラク戦争、湾岸戦争と世界史的な事件が続発し現代

世界で最大の紛争多発地帯となっている。

本講では中近東情勢の現状を最新資料によって分析し、その歴史的背景と将来動向の解明を試みる。

### 海外政治事情（東南アジア圏）

首藤素子

今年度はASEAN諸国を各国別にとりあげ政治史の展開と現状の問題について概観する。次に、国際関係における東南アジアそしてアジアNIE Sの政治経済的問題を扱う。日本との関わりが深いにもかかわらず、学生からあまり関心をもたれることのなかった東南アジア地域に対して何らかの知的関心あるいは基礎的な理解を得てほしいと願う。

〔教科書〕有斐閣選書『東南アジア現代史』  
¥1,700

〔参考書〕講義において随時指示する。

## 2年次必修科目

### 政治学原論

大谷博愛

第一に、政治を学問の対象とした時にキー概念となってくるもの——国家、権力etc.——を取り上げる。単に概念を紹介するだけではなく、現実社会の中でそれらを映し出し、具体的に検討する。次に、現代政治学の発展の系譜を辿り、主要な学説を取り上げて検討してゆく。とくに、行動論政治学および行動論以後の政治学に重点を置くことになる。

〔教科書〕講義において指示

### 日本政治史

寺崎修

明治維新以降の近代日本政治史を講義する。ただし、近代日本政治史上の諸問題に重点をおくので、基礎的知識については、概説書により予習しておくことを希望する。

〔教科書〕開講時に指示する。

### 経済原論

浅野克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験志望者には必要に応じて問題の解説も行うので、以下の問題集も用意されたい。

#### I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定

#### II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長

#### III 公共政策

#### IV 国際経済学

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』  
（成蹊堂）1988年、¥3,400

〔参考書〕青山編著『経済原論の頻出問題』  
（実務教育出版）1990年、¥906

### 行政法（総論）

梅木崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解することを目的とする。当然のことながら、最高裁判所の判例を中心とする諸種の判例を素材とする解説を行う。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）

### 国際法

東寿太郎

世界を構成する国家の数が増大し、国際関係の緊密化が進展するとともに、国際的規制を必要とする生活関係がますます増加している。このような状況下で、構造的な変容過程に入りつつある国際法の諸原則について、歴史的社会的視野から見なおすことに重点をおく。

〔教科書〕小田 滋・石本泰雄・寺沢 一編  
『新版 現代国際法』（有斐閣）



## 2 年次選択科目

### 民 法

林 幸 司

#### 社会学原理

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

民法典のうち第一編「総則」・第二編「物権」・第三編「債権」、いわゆる『財産法』と呼ばれる分野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し、『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

#### マス・コミュニケーション論

(前期) 安 川 一  
(後期) 相 田 敏 彦

「現代社会=文化におけるマス・メディアの位置と機能」を主要テーマとする。最近注目を集めた出来事や話題（例えば、有害コミック規制問題、様々な犯罪報道、セクシュアル・ハラスメント、等々）に関わるメディア現象の分析を絡めながら、マス・コミ研究の膨大な理論的・実証的蓄積を、あらためて現代社会=文化論として再構成していく。そうした中で、マス・メディアと政治過程、マス・メディアと日常生活、マス・メディアと大衆文化、メディア・リテラシーとリアリティ構成、等々の論点を浮かび上がらせていく。

基礎的なデータ等は教科書を参照。適宜、資料を配付し、参考書等を指示する。

〔教科書〕香内三郎他『現代メディア論』

(新曜社)

〔参考書〕適宜指示します。

#### 外 国 法 (英米法)

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law Systemと称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木 信『イギリス法学講義 上』

(成文堂) ¥未定

#### プ ロ ゼ ミ

小 林 正 敏・小 堀 訓 男  
寺 崎 修

プロゼミは本ゼミのための予備的な知識および研究方法について考究し、討議するものである。そこで、次のことを中心にして指導を行う。

1. 政治学一般に関する研究方法  
テーマのきめ方、文献や資料の選び方およびその使用方法など。
2. 研究論文の書き方
3. 研究発表の方法
4. 各種の実地見学  
政治学を学ぶにあって必要な施設・機関などの見学を適宜行う。

#### 刑 法

山 口 邦 夫

この時間は、いわゆる実定刑法の解釈学を講義するのではなく、政治思想と関連させながら、刑事法を中心に、おもに啓蒙期以降の法思想を考察する。但し毎時限、出席することができ、さらに、こちらで指定する文庫本などを読破してくる意欲のある者の参加を望む。内容は、少人数のゼミ風に、討論中心となる。

## プロゼミ

早川純貴

前半は日本および世界の政治・経済上の重要な問題を取りあげ、毎時間二つの班にそれぞれ違う立場から報告をしてもらい、合わせてパネル・ディスカッションをおこなう。後半ではプロゼミ生が自由にテーマを決め、選抜チームによるディベートをおこなう。

〔教科書〕 使用せず。

〔参考書〕 講義時に随時紹介。

## プロゼミ

浦田早苗

国際化、情報化された現代の政治に関する様々な問題を取り上げディベートを行う。各自の問題意識を高めること、及び専門分野への予備知識をつけることに主眼をおいている。

〔教科書・参考書〕 追って指示する。

## プロゼミ

前田英昭

議会、政党、選挙など議会制民主主義の仕組みと実態の問題を中心テーマにして、本ゼミのための予備的な知識や学習、研究方法などについて考え、議論する。国会その他の実地見学も行う。

## 3 年次必修科目

### 政治社会学

上條末夫

現代政治学の中心をなすのが政治社会学である。その対象領域は広範であり、アプローチは多様であるが、主として日本の現代政治を対象とし、そのメカニズムを多角的かつ総合的に分析する。具体的には、日本のデモクラシーのあり方に視点を置き、内閣や政党の構造、政治参加としての選挙、マス・メディアや圧力団体の機能と役割、世論の

形成と機能などを取り扱う。

〔教科書〕 上條末夫『政治社会学概論』  
(北樹出版) ¥2,300

〔参考書〕 上條末夫『戦後日本の総選挙』  
(北樹出版) ¥2,300

### 行政学

桑原英明

この授業では、現代社会の変化と行政活動との関連について理論的・経験的に検討する。とりわけ、現代社会の行政の国際化に焦点をあてる。

〔教科書〕 福田耕治『現代行政と国際化』  
(成文堂)  
『政策形成と行政官の役割』  
(行政管理研究センター)

### 国際政治学

小堀訓男

国家、権力、国際政治の主体、国際政治の客体、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等を中心に、前期では“国際政治の本質”について講義する。後期では“国際政治の問題”として、二つの世界の対立、植民地ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーを中心とした国際問題を中心に検討する。

### 外交史

首藤素子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には日本の南方進出と東南アジアにおける軍政の展開まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西欧列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。

〔教科書〕 講義において指示する。

## 政治制度

前田英昭

イギリス、アメリカ、フランス及びドイツの政治制度の歴史的発展を辿り、各国において現在どのような制度のもとに政治が行われているかを明らかにしながら、それとの比較において日本の政治制度とその運用の実態を考える。

教科書は特に使わない。

〔参考書〕読売新聞社『西欧の議会』¥4,100  
ラスキ『イギリスの議会政治』  
(日本評論社) ¥3,800  
前田英昭『国会の100年』(原書房)  
¥2,800  
前田英昭『イギリス議会政治の研究』  
¥12,000

## 外書講読 I・II (英)

佐藤恭三

「不況」「イデオロギーの相剋」「戦争」をキー・ワードとする従来の1930年代よりは、1930年代の出来事や風俗をさながら昨日のこのように綴る「同時代史」的立場のほうが、エネルギーな歴史の流れを追体験できるかも知れない。そういう意味で、今年度はマルチ・タイプの「表現者」であったアングロの1930年代論を取上げてみたい。

〔教科書〕Michael Anglo, *Nostalgia: Spotlight on the Thirties* (Jupiter Books, 1976) [コピーで配布します。]

## 外書講読 I・II (英)

竹花光範

本年度も、昨年度同様、A. H. Birch, *Representative and Responsible Government* の一部を読む予定である。例年通り、進行度にとらわれず、内容を吟味することに時間をかけていくつもりである。

〔教科書〕開講時に必要な部分をプリントして配布する。

## 外書講読 I・II (独)

早川純貴

戦後(西)ドイツ政治史の中でも一大クライマックスと言える、ドイツ社民党SPDとキリスト教民主同盟/社会同盟CDU-CSUとの大連合に焦点を当て、その政治過程を描いた文献を読む。

〔教科書〕開講時にコピー配布

## 外書講読 I・II (英)

首藤素子

前期は、一党優位体制の比較研究に関する論文集を読んでいく予定である。(T. J. Pempel ed. *Uncommon Democracies*, Cornell Univ. Press, 1990.)

後期は、日本の対外関係に関する論文集を読んでいきたいと思う。

〔教科書〕コピーを配布する。

## 外書講読 I・II (仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母法国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組みやその文化的・社会的背景などについて理解を深めてゆく。受講者

## 4 年次必修科目

### 政治思想史

小林正敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

## 3・4 年次選択科目

は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

### 外書講読 I (中) (3選)

江 林 英 基

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解説しながら、国家政治機構および国民の基本的人権についての規定を比較しながら授業を進めていく。さらに、政治と法律に関する文章の文型を解説する。

〔教科書〕江 英居著『中国憲法』(大学書林)

〔参考書〕『六法全書』(台北 三民書局)

『中華人民共和国法律滙編』

(北京 人民出版社)

### 外書講読 II (中) (4選)

岩 崎 皇

『一个日本人眼中的新旧中国』を読みます。この本の原著「北京三十五年」(岩波新書)は、1945年から'80年までの中国の社会状況を、民間人のレベルから記録したもので、中国研究の資料として高い評価を得ています。

授業は長文を読むための訓練ですから、多少の予習が必要です。

### 外書講読 I・II (ス)

細 川 幸 夫

学生諸君が、1, 2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕開講時に指示します。

### 政治心理学

上 條 末 夫

政治行動論の一つとしての政治心理学は、政治現象の心理的側面を分析する学問である。政治的人間の意識、態度、行動などの特徴を明らかにし、さらに集団行動としての大衆運動、投票行動などを分析する。また、集団内におけるリーダーシッ

プ、グルーピング、ヒューマンリレーションなども扱う。

〔教科書〕堀江・富田・上條編著『政治心理学』

(北樹出版) ¥2,300

### 財政学

里 中 恆 志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主的な手続をとおしてであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を養う。

〔教科書〕授業始めに指示する。

### 国際経済学

徳 永 俊 明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要な問題について、その基本的メカニズムの解明をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

- I 資本主義世界経済の歴史(時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ)
- II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済(歴史的位置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出-「援助」・多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、資本主義世界経済の危機、日本経済と世界経済、その他)

〔教科書〕徳永俊明『世界経済と第3世界』

(大月書店) ¥1,800

### 日本法制史

大 久 保 治 男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他

にOHP, スライド, ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新, 永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘, 探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立ち, 多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男他著『日本法制史』  
(高文堂出版社)

〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』  
(六法出版社)

## 西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について, (2)ヨーロッパの法文化における諸要素について, (3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について, (4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので, 上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では, 今のところ, 企画はあるものの, 適当な教科書はないので, 学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

〔教科書〕特に指定しない。場合によってはプリントを用意する。

## 西洋政治史

浦田 早苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは, 近代市民社会においてである。

講義では, 近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書・参考書〕開講後, 追って指示する。

## 経済政策

森岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが, ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうるように講義を進める。内容は以下のとおりである。

- I. 現代経済と経済政策
- II. 経済政策学の発展
- III. 現代経済政策の課題
- IV. 経済の成長政策
- V. 経済の安定政策
- VI. 産業組織政策
- VII. 社会均衡化政策
- VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡(他)『現代経済政策』  
(千倉書房) ¥2,300

## 刑事政策

斎藤 静敬

刑事政策は, 犯罪を防遏するための合理的, 合目的な手段, 方法を探究する学問である。そこで, 犯罪の現象と原因を考察し, その対策を概説する。例えば, 身体構造, 知能, 性格, 年令, 家庭, 婚姻, 教育と犯罪。仮釈放, 起訴猶予, 執行猶予, 刑罰……など。

## 比較憲法

竹花 光範

本年度も, 昨年度と同様, 次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法の内容と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制, 元首, 国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則, 議院内閣制と大統領制, 一院制と二院制, 社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

## 行政法(各論)

梅木 崇

昨年度の講義(行政法総論)で講じられなかった部分と, 警察行政, 給付行政について説明する。

特に国家賠償法、行政不服審査法、行政事件訴訟法については、豊富に判例をひいて、抽象的理論の具体的理解を可能にしたい。警察（秩序維持作用）法および給付行政法においては、行政法の基礎理論の具体的応用の面を中心にする。その際、行政判例の研究が平行することはいうまでもない。また各種の公務員試験の実例にも言及する予定である。比較的人数の少ない講義なのでゼミナールに類似した形式をとることにする。学生の積極的な意見発表を期待する。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）  
齊藤・梅木著『現代行政法論』（勁草書房）

## 経済法

川井克俊

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊『競争政策法概説』（高文堂）  
¥3,600  
〔参考書〕講義の中で紹介する。  
川井克俊『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

## 商法

関口雅夫

商法Ⅰは、商法学のうち、「商法総則」および「会社法」を、主要な対象としている。本講義は、平易を旨とし、商法Ⅰを、理論体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識を修得することを目的とする。

〔教科書〕関口雅夫編著『商法Ⅰ（総則・商行為）』  
関口雅夫編著『商法Ⅱ（会社法）』  
（八千代出版）¥2,800

## 労働法

藤本 茂

わが国労働法は、戦後、戦前の労働保護法制を受け継ぐとともに、国際的規準を受け入れたり、アメリカ法制を導入するなどして、発展してきました。その法理は、社会経済構造の変化、労働運動のあり様や社会生活における労働者意識の変化などによって、たえず既存の法理の妥当性が検証され、深化してきました。雇用平等、労働時間、労働協約、組合活動保障など、現在もそうです。

他方、諸君にとって労働法は、将来、就職し労働生活をおくるなかで、最も身近な法領域であるといえます。

授業は、諸君が見聞きするであろう事項を念頭に、それについての基礎的な考え方を、具体的な事例を取り入れておこなうつもりです。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。  
〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』（有斐閣）¥2,200  
菅野和夫著『労働法』（弘文堂）

## 比較政治学

大谷博愛

政治学において何故比較分析が必要なのかを知るために、まず、比較政治学の方法論的検討を行う。おもに、G. アーモンドの分析モデルを取り上げ、彼の比較政治システム論および政治文化論の意義を明らかにする。その後で、欧米諸国のいくつかを取り上げ、個々の政治システムを理解するとともに日本の政治システムと具体的に比較してゆく。

〔教科書〕講義において指示

## 国際関係論

首藤素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これでもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力

と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。  
〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻  
(東大出版会) 1989年, ¥2,266  
〔参考書〕細谷千博・丸山直起編『国際政治ハン  
ドブック』改訂版(有信堂高文社)  
1991年

## 国家安全保障論

小堀 訓 男

国際社会のなかで、一つの国家が存続するにはどのような条件が必要なのか、そして、国家的利益とは一体何をもって利益というのか、等々を中心に考えながら国家安全保障の原理と理念を究明する。

〔教科書〕小堀・志鳥共著『国家安全保障の研究』  
(高文堂出版) ¥1,200

## 宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の間をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

## 政 党 論

早 川 純 貴

イギリスの二大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労働党による「合意の政治」から、70年代に始まる「敵対の政治」、そしてサッチャー政権の特質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

## 議会関係法

前 田 英 昭

憲法第四章(国会)、国会法、公職選挙法、政治資金規正法など議会に関係する法律を取り上げ、日本の議会政治を取り巻く法状況を明らかにする。教科書は特に使わない。

〔参考書〕松澤浩一『議会法』(ぎょうせい)

¥3,800

浅野一郎『国会事典』(有斐閣)

¥2,800

前田英昭『国会の100年』(原書房)

¥2,800

## 地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

## 出入国管理論

竹 内 昭 太 郎

序論で、人の出国入国について国が管理する行政があること。それには内外人共通の記録管理面と、内外人区別がある許否管理面の二面があることを認識したうえで、現代の先進文明国では許否管理面がどのように行われているかを、一般的に考察する。

本論としては、わが国が戦後のアメリカ法制移入のもとに、いかなる立地条件と国際条件の上に立って外国人の入国滞在を許否管理しているかについて、法令及び実務の双方から論述していく。

〔教科書〕竹内昭太郎著『出入国管理論』

(駒沢書店) ¥1,030

〔参考書〕坂中英徳著『今後の出入国管理行政のあり方』(日本加除出版KK) ¥2,800

## 時事英語

山下高明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英字紙を読解できるようになることは21世紀が求める国際人にとって欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語に特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕中村憲明編『英文ニュース入門』

(成美堂)

石黒・畠中共著『5分間英和翻訳』

(南雲堂)



# 他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

# 目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道).....	1	日本経済史(古庄 正).....	7
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之).....	1	中小企業論(三井 逸友).....	8
禅学特講Ⅲ(石井 修道).....	1	教育経済論(谷敷 正光).....	8
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅).....	1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘).....	8
禅学思想史(峰岸 孝哉).....	1	財務会計論(小栗 崇資).....	9
哲学史(中村 友太郎).....	1	管理会計論(中原 章吉).....	9
インド仏教史(田上 太秀).....	2	会計監査論(飯岡 透).....	9
中国仏教史(佐藤 達玄).....	2	商業政策(岩下 弘).....	9
日本仏教史(山内 舜雄).....	2	貿易論(古沢 紘造).....	10
日用經典(皆川 広義).....	2	マーケティング(曾我 信孝).....	10
仏教美術(中島 亮一).....	2	原価計算論(加藤 利安).....	10
現代哲学概説(田島 節夫).....	2	労務管理論(石井 脩二).....	10
上代文学(小野 寛).....	2	行政法Ⅱ(齊藤 寿).....	11
中世文学(水原 一).....	3	民法Ⅳ(1)(青山 尚史).....	11
近世文学(富士 昭雄).....	3	民法Ⅳ(2)(青山 尚史).....	11
近代文学(片岡 懋).....	3	比較憲法(竹花 光範).....	11
中国文学(中村 璋八).....	3	地方自治法(梅木 崇).....	11
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉).....	3	経 済 法(川井 克倭).....	11
英文学特講Ⅱ(高野 正夫).....	3	国際関係論(首藤 素子).....	12
英文学特講Ⅲ(高野 正夫).....	3	西洋政治史(浦田 早苗).....	12
英文学特講Ⅳ(中岡 洋).....	3	宣伝広告論(上條 末夫).....	12
英文学特講Ⅴ(高松 雄一).....	4	政 党 論(早川 純貴).....	12
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄).....	4	経営学史(北村 健之助).....	12
英米演劇特講(落合 和昭).....	4	国際経営論(桑名 義晴).....	12
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎).....	4	保険経営論(石名坂 邦昭).....	13
米文学特講Ⅲ(山縣 敏夫).....	4	経営情報論(高井 徹雄).....	13
時事英語(大沢 一雄).....	4	経営分析論(片桐 伸夫).....	13
地 形 学Ⅰ(小池 一之).....	4	税務会計論(高木 克己).....	13
地 質 学(貝塚 爽平).....	4	経営労務論(中村 真人).....	13
人口地理学(土谷 敏治).....	5	商 業 史(山田 勝).....	14
応用地理学Ⅰ(高木 正博).....	5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美).....	14
文化地理学(菱口 善美).....	5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子).....	14
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之).....	5	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正).....	14
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(渡辺 惇).....	5	国文講読Ⅳ(近世)(嶋田 彩司).....	14
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗).....	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(安藤 幸輔).....	14
考古学特講Ⅲ(飯島 武次).....	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(尾形 国治).....	14
歴 史 哲 学(麻生 建).....	5	国文特講Ⅴ(近・現代)(大室 英爾).....	14
哲学史(丸山 豊樹).....	5	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子).....	15
日本民俗学(谷口 貢).....	6	時事英語(岡本 誠).....	15
マスコミュニケーション(川本 勝).....	6	英語演習Ⅰ(岡本 誠).....	15
産業社会学(安藤 喜久雄).....	6	計算機言語概論(杉田 徹).....	15
都市社会学(文屋 俊子).....	6	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄).....	15
社会福祉発達史(林 千代).....	6	応用計測学(櫃尾 英次).....	15
ソビエト経済論(山縣 弘志).....	6		
社 会 政 策(小越 洋之助).....	7		
国民所得論(吉野 紀).....	7		
中国経済論(小杉 修二).....	7		
アジア経済論(小林 英夫).....	7		

# 他学部履修科目

## 禅学特講Ⅰ

原 田 弘 道

### 禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

## 禅学特講Ⅱ

黒 丸 寛 之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

## 禅学特講Ⅲ

石 井 修 道

平成3年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

## 禅学特講Ⅳ

鈴 木 格 禅

### 『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『統曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P.411～P.445 までをコピーすること。

## 禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

## 哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教の中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代中世哲学史』（日本放送出版協会）  
¥2,060

〔参考書〕 その都度指示する。

## インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 田上太秀『禅の思想』（東京書籍）  
¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

## 中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕 『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

## 日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

## 日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典に

ついて回向文をふまえて解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

## 仏教美術

中島亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕 佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕 久野健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

## 現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕 田島節夫著『現象学と記号論』（世界書院）¥2,500

## 上代文学

小野寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽

器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

## 中 世 文 学

水 原 一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

## 近 世 文 学

富 士 昭 雄

近世の俳文の講読を通して、俳諧文学の特質を考察する。芭蕉の代表的な俳文『幻住庵記』、也有的『鶉衣』、蕪村の俳文などを考察の対象とする。

〔教科書〕中村俊定等編『近世俳文集』（笠間書院）¥824

## 近 代 文 学

片 岡 懋

夏目漱石の『坑夫』と『三四郎』以後の作品について考察する。

## 中 国 文 学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間

行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

## 英文学特講 I

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕ノースロップ・フライのシェイクスピア講義（三修社）

## 英文学特講 II

高 野 正 夫

ロマン主義への移行期の詩人、Gray, Cowper, Collins などの作品を読んでいます。

〔教科書〕教場にて指示します。

## 英文学特講 III

高 野 正 夫

イギリス・ロマン派の主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

## 英文学特講 IV

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作 *Jane Eyre* や *Wuthering Heights* を残した Brontë sisters について、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学特講 V

高松雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

## 英文学特講 VI

丸小哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、記号論、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の機能とその快楽を目指します。

〔教科書・参考書〕開講時に指示。また、適宜、プリントも配布します。

## 英米演劇特講

落合和昭

前期はギリシャ時代から現代までの劇場史を学び、後期は演劇の要素について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程度）ほど提出してもらおう。

## 米文学特講 I

東雄一郎

19、20世紀のアメリカ詩を扱う。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕開講時に指示します。

## 米文学特講 III

山縣敏夫

アメリカにおける人種差別の問題について考察する。アメリカ人にはWASPという人種的な優越意識が根深く浸透しており、白人でアングロサクソンでプロテスタントであることが彼等の誇りとされてきた。そのような社会の中で黒人奴隷がどのように扱われ、黒人文学がどのようにして生まれたかを探り、代表的な作家と作品を紹介する。又、ユダヤ系作家やその代表作品についても研究したい。

〔教科書〕開講後に指示する。

## 時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

## 地形学 I

小池一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容は最先端の知見を含む。

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

## 地質学

貝塚爽平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

## 人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化, 人口移動について, 研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

## 応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を, 災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて, 地理学と他の研究分野を関連させてのべる。  
〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』(東京大学出版会)

## 文化地理学

こも  
菱口 善美

本講義では, まず文化地理学の中心的課題, すなわち(1)文化, (2)文化領域, (3)文化景観, (4)文化史(誌), (5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら, 文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 日本史特講Ⅶ(近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

## 東洋史特講Ⅹ(近・現代)

渡辺 惇

近代中国民衆結社史: 近代中国における民衆の動きを理解する一環として, 秘密結社(会党・帮会)をとりあげ, その発生, 発展, 組織の特色, 時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介, 指示する。

## 西洋文化史 I

椽川 一朗

西洋の都市(とくにドイツ都市)の歴史を, 社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』(吉川弘文館) ¥2,900

## 考古学特講Ⅲ

飯島 武次

周文化の考古学研究。

## 歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で, 歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を, 「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは, 今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが, そもそも「他者理解」の問題, 「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』(世界書院) ¥2,500

## 哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから, 最初は古代・中世の哲学との関連を概観した後で, 近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが, それを総合するカントの哲学は, 近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ, その内容は現代に

おいてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

## 日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

## マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

## 産業社会学

安 藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているかを考察する。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

## 都市社会学

文 屋 俊 子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』

（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、

『リーディングス 日本の社会学 7 都市』

『リーディングス 日本の社会学 5 生活構造』

（東京大学出版会）各¥2,500

などが適切かと考えている。

## 社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

## ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソビエト経済は移行期の混乱を経験している。その領土的枠組すらも流動的である。しかし、ヨーロッパとアジアにまたがるユーラシア地域に、従来の歴史的背景に想定された独特の経済活動が今後も展開されていくであろうことは疑いない。

ところで、何から何への移行期なのか、という問題は、前段の「何から」を抜きに議論を進めることができない。これは、何が崩壊したのか、19



17年から1980年代までのソビエト経済とは何だったのかという問題である。これに答えるためには、第1に、社会主義とは何かを問わなければならない。それとの対比において、ソビエト経済が何であったのか、の解明が可能である。講義においては、次いで、ソビエト経済の個々の側面の分析に進むが、その要素は、(1)「計画経済」の実態、(2)工業・農業・流通をはじめとする経済構造とその機能、(3)「経済改革」からペレストロイカに至る道程などである。

全体として、1930年代に形成された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たしたことになるであろう。

〔参考書〕講義の中で指示する。

## 社会政策

小越 洋之助

本年度は賃金問題を中心に、現実の日本の状況をふまえて具体的に説明していく。前半では日本の賃金体系の基礎をなす年功賃金の特徴、その成立史、高度成長期の変容（年功賃金の職務給化）低成長期の変容（年功賃金の職能給化）、最近における「複線型人事＝賃金制度」の特徴、問題点などを述べる。後半は日本の賃金水準の決定の仕組み（賃金決定機構）を中心に具体的に説明していく。ここでは春闘方式とその変遷、人事院勧告、最低賃金制などについて述べ、全体としての賃金水準決定のメカニズムを理解してもらうことを目的とする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義中に指示する。

## 国民所得論

吉野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を變貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い

時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

手始めに、GNP統計を多面的に使う、日本の経済の実相をつかみ取ることからとりかかってゆこう。

## 中国経済論

小杉 修二

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気のみならずようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目目の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設－超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

## アジア経済論

小林 英夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。まず最初に日本とアジアの経済関係を戦前から概観し、その後戦後をⅠ.賠償過程 Ⅱ.借款過程 Ⅲ.直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。そして、輸出地区や工業団地での日系企業の具体的活動を論ずる。参考書は、追って指示する。

## 日本経済史

古庄 正

ロンドン大学教授森嶋通夫は、『日本はなぜ成功したか』（TBSブリタニカ）という書物を書き、日本経済の発展とその矛盾を、「日本的儒教」（「仁」のない儒教）との関連で論じた。森嶋が提起したこの問題を、経済史の観点からみた場合、どういふことがいえるだろうか。この講義ではこの点を中心に考えてみたいと思っている。

## 中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業者の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理が貫徹がもたらす「経済的関係」のうえで問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策についてもふれてみたい。

〔構成予定〕

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態

## IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』  
(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』  
(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』  
〔各年次〕

## 教育経済論

やしき  
谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本経済の発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した日本経済から現在までを経済団体の産業教育要請とそれに対応した政府の経済政策、産業教育政策を日本経済の発展との関連で考察する。

授業中は、できるだけ必要な資料を配布する。

〔教科書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』  
(東大出版)

〔参考書〕高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』  
(三和書房)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

## アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカ的生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生を出席を遠慮されたい。なお、この講義の性格上、3年次で履修することをすすめる。

(中央経済社)

財務会計論

小栗 崇 資

会計学の領域は、大きく財務会計と管理会計の2つに分けられる。財務会計は経済的社会的関係の調整・維持のために企業の外部に向けて行なわれる会計であり、管理会計は経営管理のために企業の内部で行なわれる会計である。領域や目的以上に2つの会計の違いを特徴づけるのは、法や制度との関係である。特に財務会計は、企業や経済を支える重要なしくみの1つとして法や制度によって様々な規制を受けている。この講義では、こうした財務会計の特徴に光を当てながら、会計の理論と制度について勉強していきたい。講義の予定としては、簿記から会計への発展過程、近代会計の理論、日本の会計制度、アメリカの会計制度、現代会計の諸問題などをテーマとして取り上げるつもりである。

今日の会計は大きな変化の波にさらされている。日本の会計制度も日本構造協議の議題の1つとして出されるほどに多くの問題を抱えており、その見直しが必要となってきた。講義でも技術的知識の習得に力を入れると同時に、今日の会計をめぐるトピックスにも触れながら生きた知識が身につくように努めるつもりである。

〔教科書〕野村秀和編著『企業会計—実務・理論・制度』（青木書店）

〔参考書〕遠藤 孝『企業会計論』（白桃書房）  
¥2,500

管理会計論

中原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入って行く。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげて行く。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査人の財務諸表への関与方式、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

〔教科書〕飯岡 透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）

〔参考書〕飯岡 透著『株式会社会計監査論』（創成社）

飯岡 透編『会計監査基本規則集』（創成社）

商 業 政 策

岩 下 弘

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
  - 1 80年代の小売商業構造
  - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
  - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
  - 1 中小小売小保護政策
  - 2 流通近代化政策
  - 3 流通システム化計画
  - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
  - 1 70年代の流通
  - 2 80年代流通産業ビジョン
    - 1) 東京商工会議所 2) 日本小売業協会
    - 3) 日本チェーンストア協会 4) 日本商業労働組合連合会 5) ゼンセン同盟
  - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
  - 1 百貨店法
    - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
  - 2 中小小売商業振興法
  - 3 小売商業調整特別措置法
  - 4 大店法
    - 1) 1973年法 2) 79年改正大店法 3) 91

年改正大店法

- 5 凍結宣言, 要綱及び条例
- 6 通産省による行政指導=抑制措置
- 7 規制緩和

1) 規制緩和の流れ-前川レポート, 行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置

8 商業集積法

## 五 海外の流通政策

1 イギリス

- 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
- 2) 日曜営業問題-商店法

2 フランス-ロワイエ法

3 ドイツ-土地利用計画

4 アメリカ-ゾーニング規制

## 六 「大形店問題」と訴訟-中小商業者運動論

1 大形店の出店をめぐる諸問題

1) 社会問題としての大形店の出店 2) 消費者と大型店

2 江釣子訴訟

1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響

2) 訴状と判決の問題点

3 生業権訴訟

1) 名古屋市の大型店問題

2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

## 七 流通問題と消費者保護政策

1 消費者問題論

2 消費者保護基本法

3 消費者行政

## 八 流通問題と独禁政策

1 独占禁止法

2 不公正取引

3 取引慣行

以上

## 貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊, 熱帯林破壊, 温暖化, 酸性雨, 放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方, 私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では, こうした危機的状況を踏まえ, 生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係(貿易, 投資, 援助)を批判的に考察したいと思います。その際, 構造的に, また, 人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは, 人格をもった人間としてのニーズ, 環境, 資源, 地球のすべての生命との

共存などを基準とした主体的な指標の確立と, それを実現し保証する政策と運動を具体的に提示する経済学です。

## マーケティング

曾我信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は, 1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか, 批判的な側面から考察する。4つめに勤労の消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって, 独占産業資本のみならず, 独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

## 原価計算論

加藤利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も, 我が国の『原価計算基準』(原価計算制度)の内容を中心にして, 原価計算の目的, 役割, 機能について講義するつもりである。またその際に, 原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は, 中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書, 参考書を使用する。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』

(東大出版会)

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』

(中央経済社)

## 労務管理論

石井脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は, つとにその複雑さをまし, とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では, 重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に, 日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本

企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本の経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』  
(中央経済社) 各¥2,800

## 行政法Ⅱ

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・营造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間(環境)形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』(勁草書房)、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』(評論社)など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 民法Ⅳ(1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』(啓文社)

## 民法Ⅳ(2)

青山尚史

民法Ⅳ-(2)は、相続法(民法典第5編 882条～1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規

律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『相続法講義』(啓文社)

## 比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法の概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制、元首、国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

## 地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

## 経済法

川井克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、な

るべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトウデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』  
(高文堂) ¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。  
川井克倭著『カルテルと課徴金』  
(日本経済新聞社)

## 国際関係論

首藤素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻  
(東大出版会) 1989年 ¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編  
『国際政治ハンドブック』改訂版  
(有信堂高文社) 1991年

## 西洋政治史

浦田早苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義では、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講後、追って指示する。  
〔参考書〕開講後、追って指示する。

## 宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

## 政党論

早川純貴

イギリスの二大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労働党による「合意の政治」から、70年代に始まる「敵対の政治」、そしてサッチャー政権の特質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。  
〔参考書〕講義時に随時紹介

## 経営学史

北村健之助

ドイツ経営経済学(前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学)およびアメリカ経営学(成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開)等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書をお勧めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』(学文社)

## 国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開

するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本の経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』  
(中央経済社) ¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

## 経営分析論

片桐伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

## 保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては、各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房) ¥2,500

## 税務会計論

高木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、課題を設定し、レポートの提出を求める。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

## 経営情報論

高 井 徹 雄

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I 総論：経営情報のシステムの観点

- (1) 経営情報と情報科学
- (2) 情報と意思決定
- (3) 情報ネットワークと情報環境

II 各論：経営情報の処理技術

- (1) データベース
- (2) 統計データ解析
- (3) シミュレーション
- (4) DSSとES

〔教科書〕高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』

(日刊工業新聞社) ¥3,200

## 経営労務論

中 村 眞 人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

## 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 国文講読Ⅰ(上代)

佐原 作美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌の中からを中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』(桜楓社) ¥1,600

## 国文講読Ⅱ(中古)

鈴木 裕子

『源氏物語』を「桐壺巻」から読む。光源氏の誕生から、多感な青年期の物語をたどりながら『源氏物語』の魅力を味わってみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一(新潮社) ¥2,300

## 国文講読Ⅲ(中世)

岡崎 正

中世の芸術として完成した能の中心的存在であった世阿弥の伝書『風姿花伝』を通して、その稽古論、演技論、作劇論、幽玄論について研究する。併せて中世の芸術全般の特色を考えてみたい。

〔教科書〕『風姿花伝』(岩波書店、ワイド版 岩波文庫)

## 国文講読Ⅳ(近世)

嶋田 彩司

『雨月物語』を読みます。江戸中期の知的状況、作者上田秋成の人生との相関などに言及しながら、

幾篇かを精読します。

〔教科書〕大輪靖宏訳註『対訳古典シリーズ 雨月物語』(旺文社、文庫サイズ) ¥620

## 国文講読Ⅴ(近・現代)

安藤 幸輔

室生犀星の文学作品を講読する。順序として、(1)俳句 (2)詩 (3)小説 (4)評論ということになる。

〔教科書〕追って指示する。(岩波、新潮文庫) 〔参考書〕その都度指示する。

## 国文講読Ⅴ(近・現代)

尾形 国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12～3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

## 国文特講Ⅴ(近・現代)

大室 秀爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。作品の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。



## 英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター・各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

## 時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除しておくこと。

〔教科書〕テープ使用。

## 英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本 誠

慣用語の成立背景を歴史的にみていくが、これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

## 計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』  
(サイエンス社) ¥1,750

## 臨床放射線特論Ⅰ

本間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕定めず

## 応用計測学

櫃尾 英治

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕岩井喜典他編著『医用画像診断装置』  
(コロナ社)



## 教職および資格講座

教 職 課 程  
学校図書館司書教諭講座  
社会教育主事講座  
博物館学講座  
社会福祉主事講座  
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。  
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

# 講義内容目次

## I 教職課程

### (1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦) .....	1
教育原理 (北村 三子) .....	1
教育原理 (坂本 信昭) .....	1
教育原理 (村山 輝吉) .....	1
教育原理 (小山 一乗) .....	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子) .....	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (改田 明子) .....	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 真理子) .....	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均) .....	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (難波 和明) .....	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子) .....	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫) .....	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要) .....	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子) .....	3
特別活動 (中野目 直明) .....	3
生活指導 (佐藤 尚人) .....	3
宗教科教育法 (小山 一乗) .....	3
国語科教育法 (神谷 道倫) .....	3
書道科教育法 (金子 卓義) .....	4
英語科教育法 (大沢 一雄) .....	4
社会科・地理歴史科教育法 (川合 元彦) .....	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一) .....	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生) .....	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗) .....	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光) .....	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (大久保 治男) .....	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏) .....	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一) .....	5
商業科教育法 (谷敷 正光) .....	5
道德教育の研究 (上岡 安彦) .....	6
教育実習 (上岡 安彦) .....	6
教育実習 (坂本 信昭) .....	6

教育実習 (村山 輝吉) .....	6
教育実習 (北村 三子) .....	7
教育実習 (小山 一乗) .....	7
(2) 教職に関する専門科目 (選択)	
教育哲学 (汐見 稔幸) .....	7
教育社会学 (高島 秀樹) .....	7
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) .....	8
教育評価 (大浜 幾久子) .....	8
教育情報学 (難波 和明) .....	8
教育調査 (鈴木 規夫) .....	8
教育史 (北村 三子) .....	8
教育関係法規 (広沢 明) .....	8
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) .....	(8)
社会教育施設 (村山 輝吉) .....	(8)
図書館学 I (山崎 慶子) .....	(8)
図書館学 II (源 昌久) .....	(8)
青少年問題研究 (和田 謙寿) .....	9
視聴覚教育 (赤堀 正宜) .....	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎) .....	9
教育法規研究 (神田 修) .....	9
児童文化 (湯山 厚) .....	9
宗教教育 (松本 皓一) .....	9

### (3) 教科に関する専門科目

#### 【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説 (大久保 俊昭) .....	10
日本史概説 (小松 寿治) .....	10
世界史概説 (井村 行子) .....	10
世界史概説 (渡辺 惇) .....	10
地誌学概説 (今朝洞 重美) .....	10
地誌学概説 (長野 寛) .....	10
地誌学概説 (宮口 侗廸) .....	10
人文地理学概説 (小林 高壽) .....	10
自然地理学概説 (早船 元峰) .....	11
自然地理学概説 (高木 正博) .....	11
民法 I (青野 博之) .....	11
民法 I (林 幸司) .....	11
政治学原論 (上條 末夫) .....	11
社会学原論 (渡辺 源樹) .....	11
経済原論 (阿部 弘) .....	11
経済原論 (荒木 勝啓) .....	12
経済原論 (小野 俊夫) .....	12
哲学概説 (篠原 壽雄) .....	12
哲学概説 (國嶋 一則) .....	12
倫理学概説 (久保 陽一) .....	12
宗教学概説 (脇本 平也) .....	12
宗教学概説 (洗 建) .....	12
宗教学概説 (松田 文雄) .....	13

宗教人類学 (佐々木 宏幹) .....	(13)
民間信仰論 (谷口 貢) .....	13
東洋思想研究 (館野 正美) .....	13
民衆宗教成立史 (洗 建) .....	13
歴史哲学 (麻生 建) .....	13
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) .....	(13)
美術史概説 (中島 亮一) .....	(13)
日本宗教文化史 (脇本 平也) .....	13
日本仏教史 (廣瀬 良弘) .....	13
【職業】	
産業概説 (前田 幸一) .....	14
職業指導 (山田 勇治) .....	14
商業実習 (前田 幸一) .....	14
【商業】	
職業指導 (山田 勇治) .....	(14)

## Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ (山崎 慶子) .....	15
図書館学Ⅱ (源 昌久) .....	15

## Ⅲ 社会教育主事講座

### (1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) .....	16
社会教育計画 (村山 輝吉) .....	16
社会教育実習 (村山 輝吉) .....	16
社会教育実習 (上岡 安彦) .....	16

### (2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) ..	(16)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子) .....	16
青少年問題研究 (和田 謙寿) .....	(17)
青少年指導演習 (和田 謙寿) .....	17
社会教育施設 (村山 輝吉) .....	17
図書館学Ⅰ (山崎 慶子) .....	(17)
博物館学Ⅰ (太田喜美子) .....	(17)
博物館学Ⅱ (竹内 順一) .....	(17)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人) .....	17
社会体育Ⅰ (古田 潤子) .....	18
社会体育Ⅱ (古田 潤子) .....	18
視聴覚教育 (赤堀 正宜) .....	(18)
教育原理 .....	(18)
教育心理学 (教育方法論を含む) .....	(18)
青年心理学 (教育方法論を含む) .....	(18)
社会心理学 (坪井 健) .....	18
教育社会学 (高島 秀樹) .....	(18)
教育調査 (鈴木 規夫) .....	(18)
教育史 (北村 三子) .....	18
児童文化 (湯山 厚) .....	18
社会教育行政 (牧野 篤) .....	18
成人学習論 (牧野 篤) .....	19

## Ⅳ 博物館学講座

### (1) 必修科目

博物館学Ⅰ (太田喜美子) .....	20
---------------------	----

博物館学Ⅱ (竹内 順一) .....	20
教育原理 .....	(20)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) .....	(20)
視聴覚教育 (赤堀 正宜) .....	20
博物館実習Ⅰ (館務) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) .....	20
博物館実習Ⅱ (収集) (所 理喜夫・葉貫 磨哉 恵津森智行・太田喜美子) ..	20
考古発掘実習 (千葉 基次) .....	21
博物館実習Ⅲ (見学) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) .....	21

### (2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) .....	21
インド仏教文化史 (奈良 康明) .....	21
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗) .....	21
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄) .....	21
仏教美術 (中島 亮一) .....	22
現代美術 (宮崎 克己) .....	22
禅美術 (海老根 聰郎) .....	22
美術史概説 (中島 亮一) .....	22
西域美術史 (相馬 隆) .....	22
考古学概説Ⅰ (日本) (前期:大三輪龍彦) (後期:倉田 芳郎) .....	22
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) .....	22
考古学特講Ⅰ (高浜 秀) .....	22
考古学特講Ⅲ (飯島 武次) .....	23
日本民俗学 (谷口 貢) .....	23
仏教民俗学 (和田 謙寿) .....	23
宗教人類学 (佐々木 宏幹) .....	23
地形学Ⅰ (小池 一之) .....	23
地質学 (貝塚 爽平) .....	23

## 社会福祉主事

## 講座

### Ⅴ 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一) .....	24
※社会福祉原論 (原田 信一) .....	24
※老人福祉論 (前期:東條 光雅) (後期:中野いく子) .....	24
※障害者福祉論 (原田 信一) .....	24
児童福祉論 (高橋 重宏) .....	24
※社会保障論 (近藤 功) .....	25
※公的扶助論 (伊藤 秀一) .....	25
※地域福祉論 (永田 幹夫) .....	25
※心理学 (福祉) (井上 孝代) .....	25
※社会学 (福祉) (山手 茂) .....	25
※法学 (福祉) (小林 弘人) .....	26
リハビリテーション論 (原田 信一) .....	26
社会福祉計画論 (和田 敏明) .....	26

社会福祉運営論 (永田 幹夫) .....	26
家族福祉論 (田村 健二) .....	26
医療福祉論 (春見 静子) .....	26
婦人福祉論 (林 千代) .....	27
保健福祉論 (安梅 勅江) .....	27
社会福祉発達史 (林 千代) .....	27
海外社会福祉論 (中野 いく子) .....	27
上記科目のうち	

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 ( ) 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

# I 教 職 課 程

## (1) 教職に関する専門科目（必修）

### 教育原理

上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）  
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

### 教育原理

北 村 三 子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

### 教育原理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

### 12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』（学芸図書）¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）¥200

### 教育原理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）¥480

### 教育原理

こ やま かず のり  
小 山 一 乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けている用語についてもとりあげてみたい。その際の留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法（教授学習・生活指導）、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』（学芸図書）¥950

『教育小六法』（学陽書房）¥2,200

小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230，¥250，¥370）  
『生徒指導の手引』（文部省¥460）  
〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育心理学  
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学  
（教育方法論を含む）

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習、発達などの領域を中心に概説する。また、心理検査などの実習を行ない、受講者の経験を通して教育心理学上の問題を考察する。  
〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学  
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学  
（教育方法論を含む）

中 村 均

教育心理学の研究によって得られた知見と研究の動向を概観し、それを教育方法に展開する方途を検討する。

1. 発達理論
  - ・ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキ等の発達理論から

2. 学習理論と教授方法
  - ・刺激=反応理論（行動主義）の立場から
  - ・認知理論の立場から
3. 個人差の検討
  - ・パーソナリティ理論
  - ・知能観
4. 教育方法
  - ・教育のシステム化
  - ・教育メディア

教育心理学  
（教育方法論を含む）

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。  
〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学  
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学  
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけでなく、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

教科書は特に指定せず、話題や事例など、必要に応じて資料の形で学生に提示している。参考文献も講義の中で紹介している。



青年心理学  
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕佐藤 正他著『青年心理学』（専修学校教育振興会）¥2,000

青年心理学  
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学－青年心理学』（学文社）¥1,000

特別活動

中野目直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』（明治図書）

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

生活指導

佐藤尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけでも1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要であ

る。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

小山一乗

まず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

〔教科書〕『教育小六法』（学陽書房）¥2,200

小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230、¥250、¥370）

『生徒指導の手引』（文部省¥460）

その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。

〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）

その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究の

あり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

### 書道科教育法

金子卓義

芸術としての書を理解し、その学習法、表現法、鑑賞法を学び、その基盤の上で実際の指導法を修得する。

〔教科書〕未定

### 英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

### 社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

川合元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、地理の学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕随時必要に応じて指示する。

### 社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

中島義一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。

出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,266

### 社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（歴史））

野呂肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

### 社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

長谷部八朗

教育をめぐるさまざまな今日の課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

### 社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

やしき  
谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷してきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めると

ともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育，②教育の基本概念，③日本資本主義の発展と社会科教育，④社会科教育の基本概念，⑤中学校の教育課程と社会科，⑥高等学校の教育課程と公民科，⑦社会科の学習指導，⑧学習指導案の作成，⑨中学校社会科の目標・内容・取り扱い，⑩高等学校社会科・公民科の目標・内容・取り扱い，⑪教育評価，⑫教育実習の意義，⑬模擬授業を通じての社会科授業実践の研究，⑭社会科教師論，⑮教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』

（梓出版）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

〔参考書〕石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）  
灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）  
無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）  
その他，若干のルポ，小説，社会科・公民科の教科書，中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成配布するので，必ずファイルを用意すること。  
視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

## 社会科・公民科教育法

（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ，社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標，構成，内容等について考究する。さらに具体的に指導計画，指導案，指導方法，教材研究，教育評価については，受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP，スライド，8ミリ，ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ，将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

## 社会科・公民科教育法

（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

橋 爪 敏

社会科は，戦後の民主的諸改革の一環として，民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって，単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく，戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし，現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり，周知のように，高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ，公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して，厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では，こうした点を踏まえた上で，公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また，模擬授業等の機会を設けて“教えること”を，実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 職業科教育法

前 田 幸 一

当授業は以下の項目で進めていく。

1. 「技術・家庭のあり方」について，新聞の切り抜きを通して考えていく。
2. 新旧の『中学校学習指導要領』の比較
3. 職業教育について

## 商業科教育法

や し き  
谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は，日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され，産業構造の高度化，経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして，高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて，商業教育は大きく軌道修正され，さらに，先端産業化，国際化，情報化時代をむかえ，再び修正されている。従つて，本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在，しっかりと商業教育を樹立するため，この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり，本来的な意味での商業教育論，

職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成にとめたい。

産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われており、商業の教員はまだ不足している（1988年11月）ので、しっかり勉強して教師をめざして欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）  
城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）  
〔参考書〕 竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成して配布するので、必ずファイルを用意すること。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕 『道徳教育の研究』〔新訂版〕（学芸図書）¥900

## 教 育 実 習

上 岡 安 彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義  
学習指導案作成実習

### 訪問指導

実習期間の研究授業参加

### 事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

## 教 育 実 習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕 大村はま著『教えるということ』（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

## 教 育 実 習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ

2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験を皆さんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討議をしたい。

## 教育実習

小山一乗

①教育実習前の段階では、教職課程履修の中での、教育実習の意義、目的・目標、内容、方法等に関する講義をする。各科学習指導案範例、授業記録、板書、授業形態分類、話し方の基本、発問

方法、授業展開の実際、授業参観の実際と記録の仕方等につき概説する。適宜視聴覚教材「教育実習の日々」等を視聴し、実習生としての「心がまえ」形成の事前指導をする。日常生活の諸事象に教育的関心を喚起すること。②実習期間中は、可能な限り、実習校を訪問して指導にあたる。③実習（体験）後は、口頭・レポート作成等による各自の報告を課し、各学校の実態報告等を通して比較考察し、広い視野から各自の体験を省察し再認識し、教職への理解を深め経験知化する。

〔教科書〕小中高の各『学習指導要領』（文部省、大蔵省印刷局、各¥230、¥250、¥370）

『中学校指導書 社会編』（文部省、大阪書籍、¥100）

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部省、実教出版¥320）

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部省、実教出版¥220）

『生徒指導の手引』（文部省、大蔵省印刷局、¥460）

『生徒指導 実践上の諸問題とその解明』（文部省、大蔵省印刷局、¥440）

『学級担任の教師による生徒指導』（文部省、大蔵省印刷局、¥230）

『教育小六法』（学陽書房、¥2,200）

〔参考書〕授業中指示する。

## (2) 教職に関する専門科目（選択）

### 教育哲学

汐見稔幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側のそれはそれに見合っていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、教材、教育方法、教育の目標などいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿形式で行なう予定です。

### 教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

## 現代社会の諸問題と教育

高 島 秀 樹

現代日本の社会は多方面において急速な変動を遂げつつあり、そこに多くの問題を発生させている。それらの変動や問題は伝統的な学校中心の日本の教育のあり方にも大きな影響を与え、いかにあるべきかという鋭い問いを提起していると考えられる。

この講義では現代日本の社会の構造と特質を初めに明らかにした上で、子どもの生活実態と社会化、現代の青年、女性と教育、産業・職業の変化と教育、高齢化と教育、情報化と教育、国際化と教育、といった論点を取り上げてできる限り具体的にその実態を明らかにするとともに、受講生自身にこれらの問題について考え発表してもらおうことを取り入れていきたい。

〔教科書〕近藤大生・有本 章編著『現代社会と教育』（福村出版）¥2,000

## 教育 評 価

大 浜 幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

## 教育情報学

難 波 和 明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

## 教 育 調 査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内

容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

## 教 育 史

北 村 三 子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

## 教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.16) 参照

## 社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.17) 参照

## 図書館学 I

山 崎 慶 子

(P.15) 参照

## 図書館学 II

源 昌 久

(P.15) 参照

## 青少年問題研究

和田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。  
〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版  
(大志堂印刷) ¥2,500

## 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.20) 参照

## 教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

## 教育法規研究

神 田 修

教育法規、法制の原理、歴史のほか、学校制度の法制と運営、教職員の地位と権利、教育行財政のしくみなどについて学習する。

〔参考書〕①兼子 仁、神田 修編著『教育法規事典』1991年(北樹出版)

②『解説教育六法』1992年版(三省堂)

## 児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすいとぐちをしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』(東京堂出版) ¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』(いずれも岩波文庫) 各 ¥450  
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』(新潮文庫) ¥400

H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』(岩波書店) ¥1,300

## 宗 教 教 育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

### (3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

#### 【社会 地理 歴史 公民】

##### 日本史概説

大久保 俊 昭

毎回文献資料（史料）のプリントを作成し、これをテキストとして、古代より順次通史的に日本史を検討したい。

〔教科書〕使用せず

##### 日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

##### 世界史概説

井 村 行 子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

##### 世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

##### 地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

##### 地誌学概説

長 野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている地域の中から、当時国の地誌を学習することにしたい。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

##### 地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

##### 人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。



〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学  
トピックス』（大明堂）¥2,800  
〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮  
書店編の『地理統計』

### 自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について  
講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じ  
る。

さらに受講生に 2.5 万分の 1、5 万分の 1 の地  
形図を用意（10 枚程度）させ、それらをもとに種  
々な作業（土地利用図・切峰面図・带状平行投  
影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解  
を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒  
インク等各人用意すること。

### 自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、土地・水を基本的な  
視点において、自然環境と人間生活とのかかわり  
を展望する。

### 民法 I

青 野 博 之

民法のうち第一編「総則」と第二編「物権」を  
対象とする。自分のことは自分で決めるとはど  
ういう意味か、自分の物は何を使ってもよいとは  
どういう意味か、借金をするときに土地を担保に  
するとはどういう意味か、自分と他人の間にある  
さまざまなことを、権利・義務という面から考え  
いく場合に参考となることを講義したいと願っ  
ている。何ができるか（権利）、何をしなければ  
ならないか（義務）を、受講生自身が考えてい  
けるように、講義を進めたい。質問は大歓迎である。

教科書は下記のものを使うが、ほかに自分で  
気に入ったもの、手持ちのものがあればそれでも  
よい。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法 I（総  
則・物権法）』（一粒社）

### 民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」  
第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分  
野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的と  
する。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が  
「受講生自身の日常生活とどのように密接に結び  
ついているか」を実感できるように留意し、『鵜  
呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもら  
えるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

### 政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党  
などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかに  
することに主眼をおくと共に、国際政治の本質と  
システムについて解明する。また、政治システム  
における主権者たる国民の政治参加のあり方や役  
割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。  
そのことによって、将来政治教育の一端を担う際  
に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義  
とする。

〔教科書〕授業開始時に指示する。

### 社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点を  
ふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関ら  
しめながら、集団論・組織論などを中心として基  
礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現  
代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体  
的に講述する。

### 経済原論

阿 部 弘

現在私たちは「資本主義社会」で生活している。  
この社会の「富」は何であろうか？「価値」を生  
み出すものが「富」であると考えられている。そ

してそれは「商品」の生産・流通によっているのであるといわれている。さて私たちの社会はその意味で「商品社会」であるともいわれているが、そうすると「資本」とか「商品」とかは一体何なのであろうか？そしてまた、このような社会のなかですべての人間が「自由」な関係のうちに働いているというが、はたしてそうなのであろうか。

今年度はこのような問題提起のもとに、「商品」とは何か、「資本」とは何か、それらと私たちの「労働」との関係に焦点を当てて考察をしていく。  
〔教科書〕阿部 弘『労働と所有 — 経済学の出発 —』（八千代出版）

## 経済原論

荒木 勝 啓

経済学全般の理解に必要な基礎理論をマクロおよびミクロの両面から解説する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）¥3,300

## 経済原論

小野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕開講の際に指示する。

## 哲学概説

篠原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』〔内篇¥360，外篇¥400〕（中公文庫）

## 哲学概説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に抛り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕その都度示す。

## 倫理学概説

久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等—現代における倫理の問題—国際的正義、生命倫理等—について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 宗教学概説

脇 本 平 也

—宗教学説史—経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

## 宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕随時指示する。

## 宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域などを概説し、今年度は日本仏教の特色について述べる。  
〔参考書〕随時指示する。

## 宗教人類学

佐々木宏幹

(P.23) 参照

## 民間信仰論

谷口貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

## 東洋思想研究

館野正美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子・孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。

易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

## 民衆宗教成立史

洗建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀一郎編『日本の宗教』（大明堂）

¥2,000

## 歴史哲学

麻生建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生建『解釈学』（世界書院）

¥2,500

## 日本文学史Ⅱ

廣瀬良弘

(P.21) 参照

## 美術史概説

中島亮一

(P.22) 参照

## 日本宗教文化史

脇本平也

教科書その他の参考文献を読み進めながら、日本宗教文化史における夢の位置や意味について考えてみる。

〔教科書〕西郷信綱『古代人と夢』（平凡社）

## 日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安末・鎌倉・室町・近世にかけての仏教と社会・文化とのかわりについて講述する。

〔教科書〕参考史料は随時コピーして配布。

## 【職 業】

### 産 業 概 説

前 田 幸 一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』  
(有斐閣)

日本興業銀行産業調査部編『日本産業  
読本』(東洋経済新報社)

武藤博道・日本経済研究センター編  
『図説日本産業』(日本経済新聞社)

## 【商 業】

### 職 業 指 導

山 田 勇 治

(P.14) 参照

### 職 業 指 導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の単なる斡旋指導ではなくて、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』(創成社)  
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育  
—職業指導論—』(福村出版)  
¥1,500

### 商 業 実 習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

## II 学校図書館司書教諭講座

### 図書館学 I

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）¥1,442

### 図書館学 II

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 日本図書館協会分類委員会改訂編集

『日本十進分類法 新訂 8 版』  
（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年版』

（日本図書館協会）

### Ⅲ 社会教育主事講座

#### (1) 必修科目

##### 社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』  
(学文社) ¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』  
(エイデル研究所)

##### 社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広

報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』  
(学文社) ¥2,000

##### 社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

##### 社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

(全日本社会教育連合会) ¥773

ジェルビ著『生涯教育』(東京創元社)  
¥1,500

#### (2) 選択必修科目

##### 現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

##### 婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題(婦人問題)の現状を明らかにし, その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては,

- I 女性問題を捉える基本的視点  
(ライフサイクル論, フェミニズム論争など)
  - II わが国における婦人教育政策の歴史と現状
  - III 国際的動向と女性学の発展
  - IV 女性問題学習の実際  
(社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など)
  - V 今後に向けての課題
- という内容を考えている。  
〔教科書〕なし  
〔参考書〕授業中に紹介する。

図書館学 I

山崎慶子

(P.15) 参照

博物館学 I

太田喜美子

(P.20) 参照

青少年問題研究

和田謙寿

(P.9) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P.20) 参照

青少年指導演習

和田謙寿

将来, 青少年指導者を希望する者, つまり, 社会教育主事や社会福祉主事, 少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと, 受持ち生徒の生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬので, 非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち, 研究しようと心掛ける者は, 青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

〔参考書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版  
(大志堂印刷) ¥2,500

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し, 成長しています。企業の生きた姿を知ることは, 卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は, 企業人教育20年の経営コンサルタントが, 実践事例を中心に, 企業論と人間論を, 学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を, 企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは, 会社選択のノウハウを, 個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

〔参考書〕『MTS総力経営』

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
  2. 社会教育施設にかかわる人々
  3. 公民館
  4. 図書館
  5. 博物館
  6. 社会体育施設
  7. その他の社会教育施設・関連施設
  8. 社会教育施設をめぐる動向と課題
- 〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』

〔講座・現代社会教育 第6巻〕  
(亜紀書房)

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして, 私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え, 行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て, 地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。  
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育Ⅱ

古田潤子

人間の動きと道具との関係。  
動きに於ける人と人との対話。  
動きと呼吸との関係。  
動きのイメージ。  
効率のいい力の使い方。  
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.20) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育心理学  
(教育方法論を含む)

(P.2) 参照

青年心理学  
(教育方法論を含む)

(P.2・3)参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチに

も留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

教育社会学

高島秀樹

(P.7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P.8) 参照

教育史

北村三子

(P.8) 参照

児童文化

湯山厚

(P.9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中であって、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。



## 成人学習論

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

## IV 博物館学講座

### (1) 必修科目

#### 博物館学 I

太田 喜美子

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しい。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事資格を取得希望の方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法については、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

#### 博物館学Ⅱ

竹内 順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

#### 教育原理

(P. 1) 参照

#### 社会教育の基礎（社会教育概論）

村山 輝吉

(P. 16) 参照

#### 視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

#### 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・飯島 武次  
太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

#### 博物館実習Ⅱ（収集）

所 理喜夫・葉 貫 磨 哉  
恵津森 智 行・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

### 考古発掘実習

千葉 基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。発掘調査は、一人では実施できないので、学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。

### 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・飯島 武次  
太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

## (2) 選択必修科目

### 日本文化史Ⅱ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

アジャー』（山川出版社）  
奈良康明著『釈尊との対話』（NHK  
ブックス）

### 西洋文化史Ⅰ

椽川 一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

### インド仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ－インド、東南

### 西洋文化史Ⅱ

三小田 敏雄

平成3年度ヘレニズム世界を取り上げ、ローマの出現までを学んだ。本年度はローマ帝国の歴史を前31年から紀元後150年頃までを取り上げ、その間の政治・社会の情勢、法律、教育、軍隊、文学、芸術など文化の諸相を詳しく学んで行きたい。前・後期2回のレポートを提出して貰う。

〔教科書〕ベンコ編新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』教文館  
¥4,635

〔参考書〕1. モンタネリ『ローマの歴史』（中央公論社）

2. モンテスキュー著『ローマ人盛衰原因論』
3. ギボン『ローマ帝国衰亡史』  
(筑摩書房)

- ・記録類も併用して考察する。  
[教科書] 辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』  
(近藤出版社) ¥2,060
- [参考書] 適宜指示する。

## 仏教美術

中 島 亮 一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的(宗教的)な意味などを考察する。

[教科書] 佐和隆研著『仏教美術入門』(社会思想社・教養文庫576) ¥720

[参考書] 久野 健著『仏像の歴史』(山川出版社) ¥1,600

## 西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

## 現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

## 考古学概説Ⅰ(日本)

(前期) 大 三 輪 龍 彦  
(後期) 倉 田 芳 郎

日本考古学を中心に、考古学的思考とはどのようなものかを考え、学問の目的、意義について講義する。また後半では、歴史時代特に中世考古学における事例を紹介しながら歴史学との関係についても触れてみたい。

## 禅美術

海老根 聰 郎

日本の中世時代(鎌倉、南北朝、室町時代)の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。(毎回スライドを使用する。)

## 考古学概説Ⅱ(外国)

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

[参考書] 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

## 美術史概説

中 島 亮 一

昨年度は日本の美術を古代(藤原京時代から平安時代末期まで)を中心にみて来た。それをうけ今年度は中世から近世の一部(鎌倉時代から江戸時代前期まで)に重点をおいて、スライドや文書

## 考古学特講Ⅰ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、これらの文化を概観する。

### 考古学特講Ⅲ

飯 島 武 次

周文化の考古学研究。

### 日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

### 仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や霊魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

### 宗教学人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拝など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教の人類学序説——』（青弓社）  
¥2,060

### 地 形 学 I

小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

### 地 質 学

貝 塚 爽 平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

## V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

### 社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』

(誠信書房) ¥1,700

### 社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応えうる専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)

2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』(柴田書店)

### 老人福祉論

(前期) 東 條 光 雅  
(後期) 中 野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1991』(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1991年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

### 障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

### 児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』

(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

## 社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

## 地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意

味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会)

¥2,000

## 心理学(福祉)

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

## 社会学(福祉)

山手 茂

社会福祉学の基礎科学としての社会学の概論を講義する。講義内容は、次のとおりである。

- I. 社会学と社会福祉学
- II. 現代社会と現代人の生活・意識
- III. 現代社会と科学技術
- IV. 現代社会と専門職
- V. 現代社会における家族
- VI. 現代社会における地域社会
- VII. 現代社会における社会問題
- VIII. 福祉社会の形成

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座・12・社会学』（中央法規出版）（新学年度までに改訂版が出版される予定、価格未定）

〔参考書〕山手 茂『社会問題と社会福祉—社会学・社会福祉学論集—』（亜紀書房）  
¥2,800

## 法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことならについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

## リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等につて概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

## 社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。平成5年度から都道府県および市町村行政は「老人保健福祉計画」の策定が義務づけられた。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦

点である「地域福祉計画」「老人保健福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行いたい。

## 社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫ってみたいと思う。

〔教科書〕改めて指示したい。

## 家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族—社会の鎖—夫婦親子の鎖—』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

## 医療福祉論

春 見 静 子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを事例を踏まえて検証する。

教科書・参考書は授業時に指示する。



## 婦人福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時紹介。

## 保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕平山宗宏・高山忠雄監修 日本保健福祉学会編

『保健福祉学』（川島書店）

## 社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思

想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

## 海外社会福祉論

中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることとする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）



# 付 録

研 究 所 案 内

国 家 試 験 に つ い て

# 研 究 所 案 内

## 法 学 研 究 所

本学には大学直属の研究機関として幾つかの研究  
所があるが、法学部学生諸君に関係するものとして  
「法学研究所」を紹介しておきたい。

昭和47年4月に設立された法学研究所は、現在、  
(1)研究部、(2)研修部、の2部から構成されている。  
研修部は、国家試験等の特別受験指導を目的とする  
が、(イ)司法試験コースと(ロ)公務員試験コースと  
に分かれている。両コースとも、本学専任教員に加  
えて、受験指導に経験豊かな外来講師ならびに新進  
気鋭の法曹実務家が指導に当っており、原則として  
月曜日から金曜日にかけて継続的に特別の指導・講  
義を行っている。また、必要に応じて模擬試験をも  
行っている。但し公務員コースは現在、その在り方  
について組織的に検討中のため募集を停止している。

研修部会員になるためには、所定の手続をふまな  
ければならない。また、特別研究室室員を希望する  
者は所定の入室試験に合格しなければならない。受  
験資格を有するのは、本学学生および卒業生である。  
入室試験は、基礎的事項について行う。(ただし、  
試験の日時、試験科目等については、年度により変  
更があるので、掲示等に注意すること。)

国家試験等の受験を志望する学生は、法学研究所  
の研修部を利用することが合格への近道である。詳  
細については、法学研究所の事務局(第5研究館  
102号室)に問い合わせいただきたい。

## マス・コミュニケーション研究所

### 1. 本研究所の主旨

本研究所の学生指導の主旨は、1)現代の情報・  
社会を的確に把握し、将来、新聞・テレビ・出版・  
広告などのマス・メディアをめざす諸君を育成する  
こと、2)希望する学生諸君にマス・コミ各分野を  
研究してもらい、そのための機会をいろいろなか  
ちで提供することにある。

本研究所の授業・各コースは、今日のマス・コミ  
研究のラインに従って慎重に組まれている。これら  
は学部の授業(単位)とは全く別個なもので、自主  
的な学習意思があれば原則としてだれでも自由に学  
ぶことができる学習の場である。

マス・コミ界をめざしている諸君、あるいは自分  
の可能性を広げようとする多くの諸君の来訪を待っ  
ている。

尚、入所試験は4月下旬～5月上旬および10月中  
旬の年二回、論文及び面接によって行なわれる。

くわしくは、本研究所事務局(第5研究館102号  
室)まで。

### 2. 開講科目

下記の講座の中から1年間に2～4科目を履修す  
る。また、授業は原則として5時限・6時限に行う  
ので学部の授業とは重ならないように配慮してある。

マス・コミュニケーション論・国際比較マス・コ  
ミュニケーション論・文章表現論・情報システム概  
論・電子計算機実習・現代広告論・テレビ報道論・  
比較テレビ論・国際報道論・時事英語など、またそ  
のほか、時に応じて、特別講義・講演などを開講し  
ている(いずれも学内外教員、もしくはマス・コミ  
の第一線で活躍中の新聞論説委員、記者、等によ  
って担当される)。開講科目、内容については本研  
究所事務局(第5研究館102号室)まで。

# 国家試験について

## 〔1〕司法試験について（司法試験法）

1. (目的) 司法試験は、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な学識及びその应用能力を有するかどうかを判定することを目的とする国家試験である。
2. (司法試験の種類) 司法試験は、第1次試験及び第2次試験に分けられる。
3. (第1次試験及びその免除について) 第1次試験は、第2次試験を受けるのに相当な教養と一般学力を有するかどうかを判定することをその目的として行われるものであるから、本学において、学士の称号を得るために必要な一般教養科目（一般教養科目の人文・社会・自然の各分野にわたり、合計36単位以上及び第1外国語8単位、第2外国語4単位、計12単位以上）の履修を終った者については、免除される。
4. (第2次試験) 第2次試験は、第1次試験の合格者又は免除された者について、裁判官、検察官又は弁護士になろうとする者に必要な学識及びその応用力を有するかどうかを判定することを目的として行われるもので、短答式及び論文式による筆記並びに口述の方法によって、次の通り実施される。
  - (1) 試験科目等
    - a. 短答式による試験は、憲法・民法・刑法の3科目について行なわれる。
    - b. 論文式による試験は、短答式による試験に合格した者について、次の6科目について行なわれる。
      - (7) 憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法又は刑事訴訟法の5科目。
      - (4) 民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法、破産法、労働法、国際公法、国際私法、刑事政策のうち選択1科目。なお、(7)において民事訴訟法及び刑事訴訟法を選択しなかった場合に限り、民事訴訟法及び刑事訴訟法は選択することができる。
    - c. 口述試験は、筆記試験に合格した者につき、その者の論文式試験において受験した6科目について行なわれる。
  - (2) 第2次試験は、いずれも知識を有するかどうかの判定に偏することなく、その理解力、推理力等についても判定される。
  - (3) 第2次試験の論文式試験の合格者の1部を受験期間が短い者から定めることができる。
  - (4) 筆記試験（短答式及び論文式試験）に合格した者については、その申請により、次回の筆記

試験が免除される。

5. (司法試験の施行) 司法試験は、毎年1回以上実施され、その期日及び場所はあらかじめ官報をもって公告される。
6. (合格者の決定方法等) 司法試験の合格者は、司法試験審査委員の合議によって定められ、合格者には、合格証書が授与される。
7. (受験手続料) 第1次試験 2,800円、第2次試験 6,400円
8. 合格者の数は、平成4年度 600人、平成5年度から 700人程度になる。

なお、受付期間、申込方法、採用人員等については、東京都千代田区霞ヶ関1の1法務省司法試験管理委員会に照会すること。

## 〔2〕国家公務員採用I種試験について

1. 国家公務員採用I種試験とは、従来の国家公務員採用上級試験の甲種の名称が変更されたもので、各省庁の上級係員又は試験研究機関の研究員として事務、技術又は研究の業務に従事する。
2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上33歳未満の者。
3. 試験方法
  - 第1次試験
    - a. 教養試験（多肢選択式）－公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。
    - b. 専門試験（多肢選択式）－下記の各区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。
  - 第2次試験
    - a. 専門試験（記述式）－第1次試験と同じ。
    - b. 総合試験（記述式）－総合的な判断力、思考力などの能力についての筆記試験。
    - c. 人物試験－人柄などについての個別面接。
4. 試験期間

第1次試験 7月上旬、第2次試験が8月上旬、最終合格者の発表は10月上旬。

なお、試験の詳細については人事院任用局試験課（3581-5311）または人事院の各地方事務局に照会するように。

〈区分〉  
行政、法律、経済、心理、教育、社会、数学、物理、地質、情報工学、電気、電子、機械、土木、建築、化学、金属、資源工学、農業、薬学、

農業経済，農業化学，農業工学，畜産，林学，水産，砂防，造園。

### 〔3〕国家公務員採用Ⅱ種試験について

1. 国家公務員採用Ⅱ種試験とは，上級乙種試験と中級試験を統合して「将来の行政の第一線を担い得るような有能な人材を確保するため，大学卒業程度の能力を有する者の採用を充実していくことを目的」とした試験で，各省庁の中級係員として事務・技術又は研究業務などに従事する。

#### 2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく，試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上29歳未満の者。

#### 3. 試験方法

##### 第1次試験

- 教養試験（多肢選択式）－公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。
- 専門試験（多肢選択式）－下記の区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。
- 専門試験（記述式）－bと同じ。

##### 第2次試験

- 人物試験－人柄などについての個別面接。

#### 4. 試験期間

第1次試験7月上旬，第2次試験が9月上旬，最終合格者の発表は11月上旬。

なお，試験の詳細については人事院任用局試験課（3581-5311）または人事院の各地方事務局に照会するように。

##### 〈区分〉

行政，図書館学，物理，電気・電子，機械，土木，建築，化学，資源工学，農学，農業土木，林学。

### 〔4〕裁判所職員（裁判所事務官）採用Ⅰ種試験について

1. 裁判所の機構は大別すると裁判部門と司法行政部門に分けられますが，各裁判所の司法行政部門において，裁判部門が行う裁判権の行使に必要な人的・物的機構を供給し，事務の合理的・効率的な運用を図る等のいわばハウスキーピング的な事務を主として行う国家公務員を裁判所事務官といい，これらの人を採用する試験が，裁判所事務官採用試験である。

#### 2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく，受験する年度の4月1日現在，21歳から26歳までの者。

#### 3. 試験方法

##### 第1次試験

- 教養試験（択一式）－一般的知識及び能力についての筆記試験
- 専門試験A（択一式）－憲法・民法・刑法の専門的知識及び能力についての筆記試験。
- 専門試験B（択一式）－憲法・民法・刑法及び民事訴訟法又は刑事訴訟法の専門的知識及び能力についての筆記試験。

##### 第2次試験

- 専門試験（論文式）－一次試験と同じ4科目の専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- 教養試験（論文式）－課題に対する識見，判断力及び理解力についての筆記試験。
- 口述試験－主として人物及び専門的素養について面接による試験

#### 4. 試験期間

第1次試験7月中旬，第2次試験は8月中旬，口述試験は8月下旬から9月中旬にかけ指定する日に行われる。最終合格者の発表は10月上旬。

なお，試験の詳細については，最高裁判所事務総局人事局任用課試験係（3264-8111）へ照会するように。

### 〔5〕裁判所職員（裁判所事務官）採用Ⅱ種試験について

1. I種試験とほぼ同じ方法で実施されるが，問題数，出題分野などはI種試験に比べて少なくなる。

#### 2. 受験資格

I種試験と同じ。

#### 3. 試験方法

##### 第1次試験

- 教養試験（択一式）－I種試験と同じ。
- 専門試験A（択一式）－I種試験と同じ。

##### 第2次試験

- 教養試験（論文式）－I種試験と同じ。
- 専門試験（論文式）－憲法についての専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- 口述試験－I種試験と同じ。

#### 4. 試験期間

試験日程はI種と同じ。合格発表は10月中旬。

なお，試験の詳細については，最高裁判所事務総局人事局任用課試験係（3264-8111）へ照会するように。



# 駒沢大学の構内図

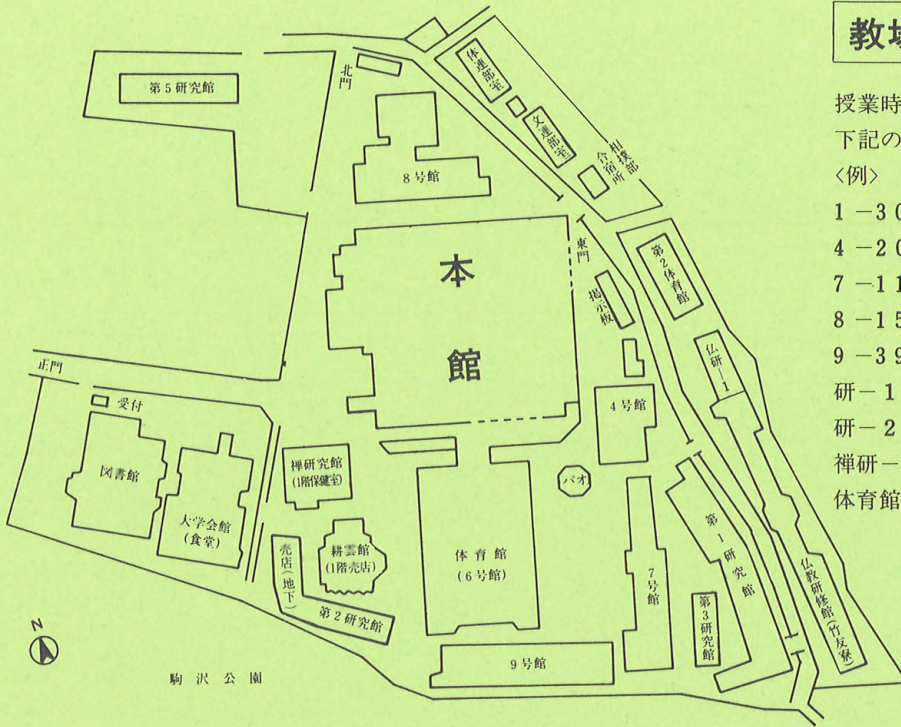
## 教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

1-301	本館(1号館)3階
4-204	4号館2階
7-110	7号館1階
8-150	8号館1階
9-390	9号館3階
研-1	第2研究館1階
研-2	第2研究館1階
禅研-201	禅研究館2階
体育館	体育館2階

(ただし選択種目により第2体育館になる)

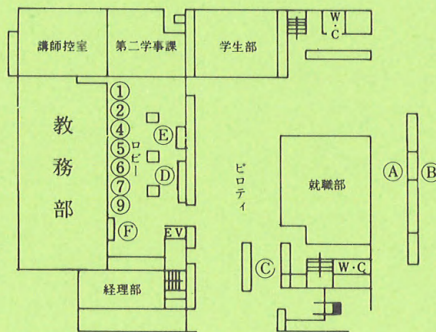


## 本館 1F

### 各事務室・掲示板配置図

#### 教務部窓口

- ① 教職課程  
学校図書館司書教諭講座
- ② 博物館学講座  
社会福祉主事講座  
社会教育主事講座
- ④ 証明書(教務関係)申込受付・発行  
<健康診断書および在学証明書は学生部>  
※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤ 諸届願  
(休学・復学・退学・死亡  
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更・聴講)
- ⑥ 大学院関係・留学生関係  
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦ 時間割変更・休講・外国語指定届  
卒業証書・転部転科
- ⑨ 履修・試験・成績・学業相談  
学部演習(仏教学部・経済学部  
法学部・経営学部)



#### 掲示

- A 第1 掲示板(表面)  
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項、教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- B 第2 掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー  
教務部関係連絡事項(12月~3月)  
就職部関係連絡事項(8月)
- C 第3 掲示板ー臨時掲示板ー  
教務部関係連絡事項(12月~3月)  
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- D 休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- E 授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- F 大学院・留学生関係掲示板



